

入堂式 主教品の入堂、司祭、輔祭が出迎え

長輔祭 睿智

詠隊 「常に福」をゆっくり歌いはじめる。

主教 至聖なる生神女や、我等を救い給へ

長輔祭 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え…

主教 ハリストス神、我等の恃みよ、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す、

長輔祭 光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世にアミン、主憐めよ(3回) 主教よ福を降せ

主教 ハリストス我等の真の神は…

長輔祭 アミン

副輔祭主教にマンティアを着せる。主教十字架をとって接吻。司祭、順に十字架と主教の手
に接吻。祝福。十字架を持つ司祭に続いて進む。

つねに さいわい を 満ち まったく
常 福 全

いさぎ ようして かみを産みし ははーや、
潔 神 母

なんじは じつに ほめらる ベーし。
爾 実 讃

ヘルビムのうえに 尊とまれ 光えいたぐいなく
上 尊 栄

セラフィムにまさり みさおを やぶらずして
セラフィムに 貞操

かみことばを 産めり、かみのじつの
神 言 神 実

ははなるを以て なんじを あがめーほむ。
母 爾 崇 讃

主教はアムウォンの上に立つ。司祭はその下に二列に並ぶ。長輔祭入堂の祝文を読む。

長輔祭 君や、祝讃せよ

主教 我等の神は崇め讃めらる……

輔祭 アミン、「天の王」、「聖三」「至聖三者」「天主」

主教 蓋、国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

輔祭 アミン。主や我等を憐めよ……

讃美たる生神女や……

主教はハリストス、生神女のイコンに接吻。堂のイコンの前でトロパリを誦する。

輔祭 主に祈らん。

主教 主よ、爾が聖なる住所の高きより……

クロボク(帽子)をつけ、3度躬拝してジェズル(杖)をとり、信者に向かって三方向に祝福する。

祝福に合わせてトンデスポティンを歌う

輔祭 我爾の家に入り、爾を畏れて……



主教祭服を着装

主教、聖堂中央のカフェドラの上に立つ。司祭もカフェドラの方へ行く。司祭は祝福を受けた後、

至聖所に行く。主教カフェドラに立ち、司祭の持ってくる祭服を順につける。

「爾の霊は主を楽しめよ」を歌う。(次ページ)

①

なんじの たましいは 主を たのしめよ。
爾 霊 楽

② 誦経者: 救いの上衣と喜びの着物を 汝に着せしむるによる。
うわぎ

①

なんじの たましいは 主を たのしめよ。
爾 霊

③ 誦経者: 花婿の如く 汝に栄冠をこうむらし、花嫁の如く
えいかん

汝を美しく装うによる。

① + ② + ① + ③ + ① + ②...

終わるまで繰り返す。

長輔祭輔祭はアムウォンで主教向かって立ち、香炉を振り、祭衣の祝文を交互に唱える。

ポドサッコスニク(下着)、領帯、帯、パーリツツァ、套袖、サッコス、オモフォル、十字架、パナギア、ミトラ

副輔祭ディキリ・トリキリ(2本と3本のろうそく)を主教に渡す。

輔祭 主に祈らん。

輔祭 祝文

トン デス ポ テイン ケ アルヒエレア イ モン

キリエ フィ ラ テ イス ポ ラ エ ティ デス ポ タ

イス ポ ラ エティ デス ポ タ イス ポ ラ エ ティ デス ポ タ

主教はカフェドラからディキリ・トリキリで祝福。

司祭 我らの神は崇め讃めらる、今も何時も世に、

誦経 アミン 時課を始める。主教、手洗い

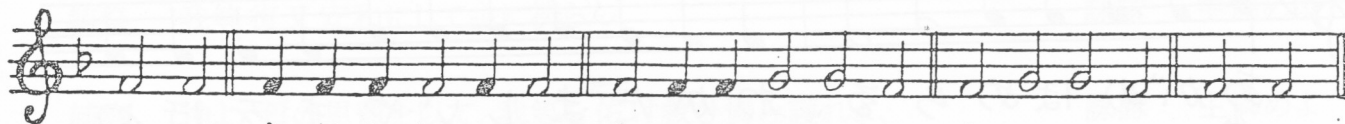
聖体礼儀

輔祭 君よ、祝讃せよ、

司祭 父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今も何時も世世に、

詠隊 アミン

[大連禱]



アミン 主あわれめよ 主あわれめよ 主なごに アミン

輔祭 我等安和にして主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 上より降る安和と我等が^{たましい}靈^{すくい}の救の為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 此の聖堂、及び信と^{つつしみ}慎と神を畏るる心とを以て此に^{ここ}来る者の為に主に祷らん

詠隊 主憐めよ

輔祭 教會を司る尊貴なる我等の

主教 司祭の尊

品、ハリストスに^よ因る輔祭職、^{ことごと}悉くの教衆、及び衆人の為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 我が國の天皇、及び國を司る者の為に主に祷らん。

詠隊 主憐めよ

輔祭 此の都邑と^こ凡^{まち}の都邑と地方の為に、及び信を以て此の^{うち}中に居る者の為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 氣候順和、五穀豊穰、天下泰平の為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 航海する者、旅行する者、病を患ふる者、^{うれ}艱難に遭ふ者、^{かんなん}虜^{とりこ}となりし者、及び彼等の救の為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 我等^{もろもろ}諸^{うれい}の憂愁と^{いかり}忿怒と^{あやうき}危難とを免るるが為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を^{たす}佑け救ひ憐み護れよ、

詠隊 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

詠隊 主爾に

司祭 ^{けだし}蓋 凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に詠隊 「アミン」

〔第1アンティフォン〕第102 聖詠

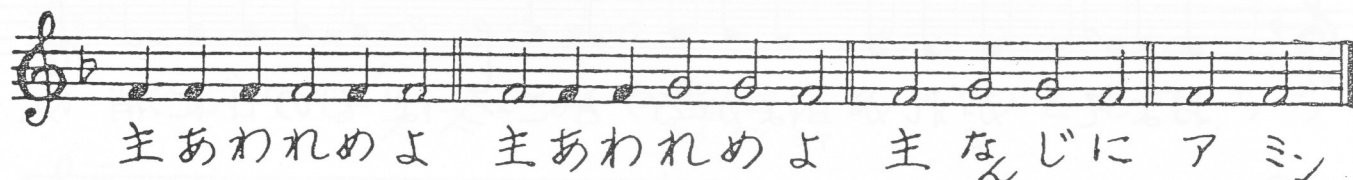
トロバリ1調のメロディによる

アミンに引続き

わがたましいや主をほめあげよ、主やなんじは
 あがめほめらる、わがたましいや主をほめ
 あげよ、わがちゅうしんやその聖なる名をほめあげよ、
 わがたましいや主をほめあげよ、かれがことごとく
 とくの恩をわするるなかれ、かれは汝がもろもろ
 の不法をゆるし、汝がもろもろのやまいをいやす、
 光 えいはちちと子とせいしんにきす、いまも
 いつも世々にアミン、わがたましいや主をほめあげよ、
 わがちゅうしんや、その聖なる名をほめあげよ、主や汝は
 あがめほめらる

霊 讃 揚 崇 讃 揚 中 心 セイ ナ 讃 揚 霊 彼 忒 彼 諸 フ ホウ 光 コオ 父 聖 神 両方

[小連祷]



輔祭 我等^{またまたあんわ}復又安和にして主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を^{たす}佑け救ひ憐み護れよ、

詠隊 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖
人とを記憶して、我等己の身及び互に^{おのおの}各の身を以て、并に^{ならび}悉く^{ことごと}の我等の生命
を以て、ハリストス神に委託せん、

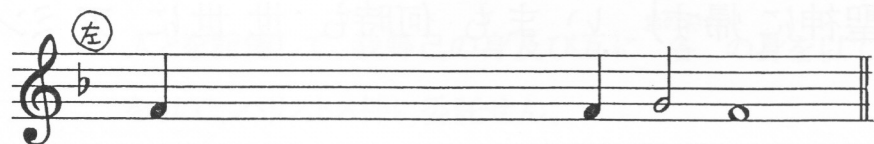
詠隊 主爾に

司祭 ^{けだし}蓋 爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も^{いつ}
世世に、

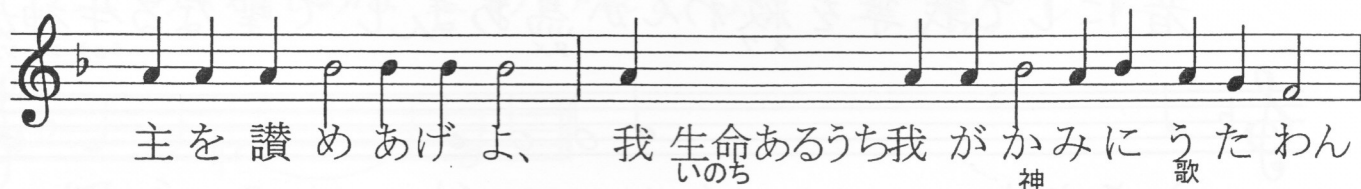
詠隊 「アミン」

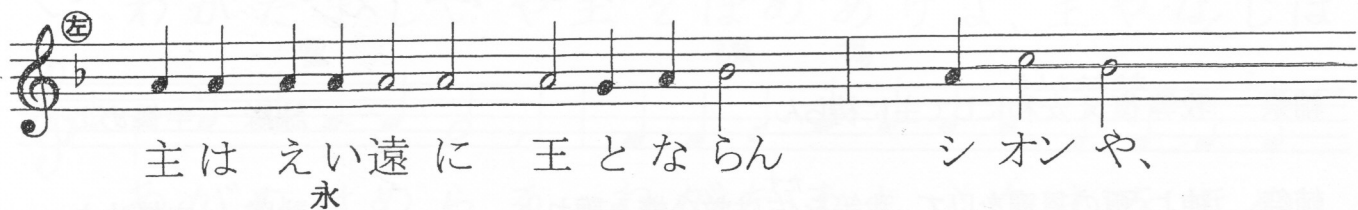
[第2アンティフォン]第 145 聖詠(省略されて「光榮は」「今も」「神の独生の子」に続くこともある。)

トロパリ1調のメロディによる



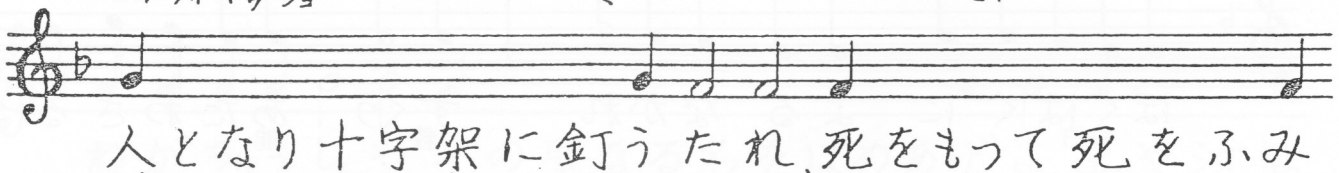
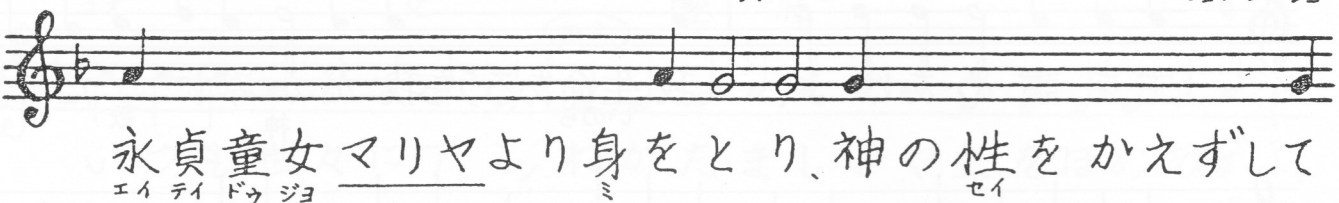
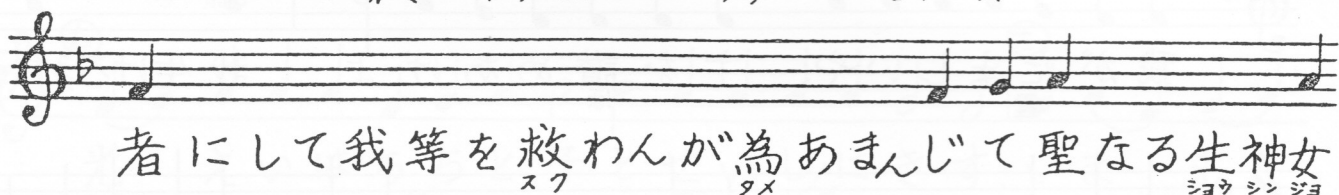
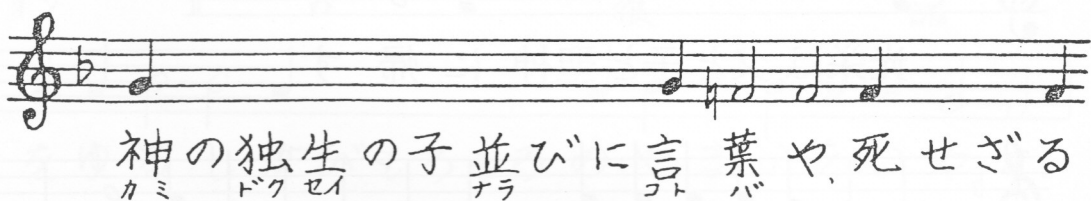
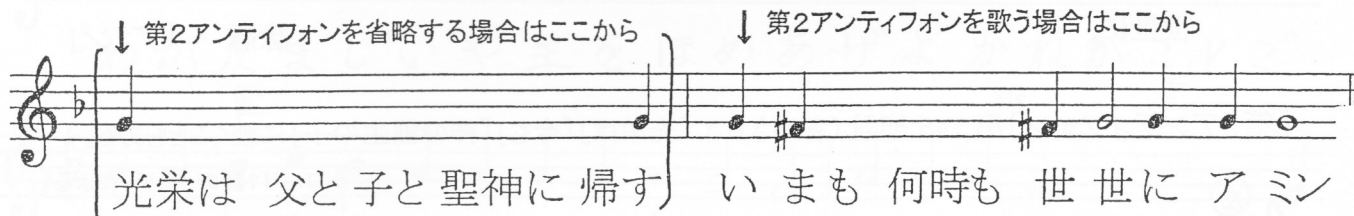
光榮は父と子と聖神に帰す

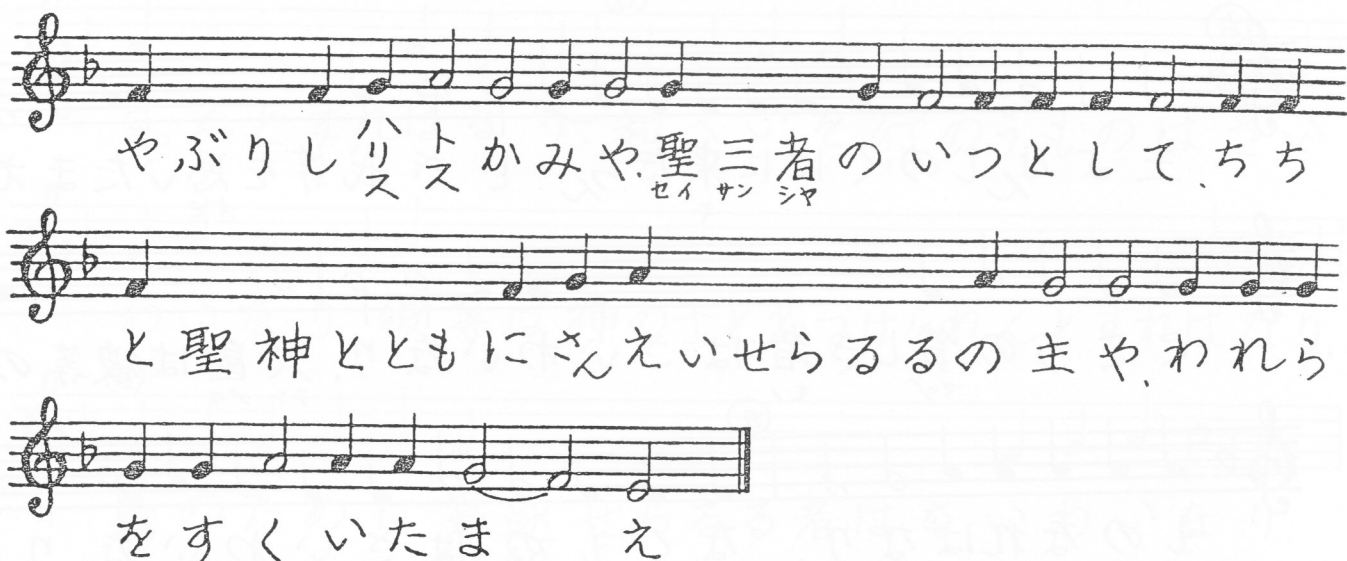




[神の独生の子]

トロバリ6調のメロディによる





やぶりし^ハリ^スス^スかみや^セイ^イサン^{シヤ}のいつとして、ちち
と聖神とともにさんえいせらるるの主や、われら
をすくいたま え

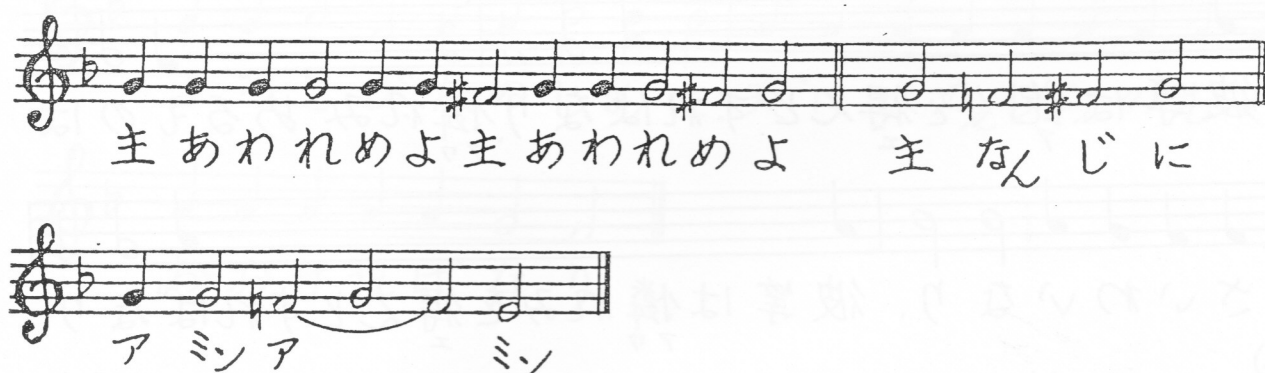
[小連祷]

輔祭 我等^{またまたあんわ}復又安和にして主に祷らん、 詠隊 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を^{たす}助け救ひ憐み護れよ、 詠隊 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖
人とを記憶して、我等己の身及び互に^{おのおの}各の身を以て、并に^{ならび}悉く^{ことごと}の我等の生命^{いのち}
を以て、ハリストス神に委託せん、 詠隊 主爾に

司祭 ^{けだし}蓋國と権能と光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、 詠隊 「アミン」



主あわれめよ主あわれめよ 主なんじに
ア ミン ア ミン

(右)

主よなんじのくにに^キ来たらんとき我等を^{オモ}思いたまえ。

こころの^{マツ}貧^{モノ}しき者はさいわいなり、天^{テン}國^{ゴク}は彼等の

(左)

ものなればなり、なくものはさいわいなり。

(右)

彼等は^{ナグサ}慰^エめを得んとすればなり、温^{オン}柔^{ジュウ}なるもの

はさいわいなり、彼等は地^チを^ツ嗣^ツがんとすれば

(左)

なり、義^ギに^ウ飢^ウえかわく者はさいわいなり、

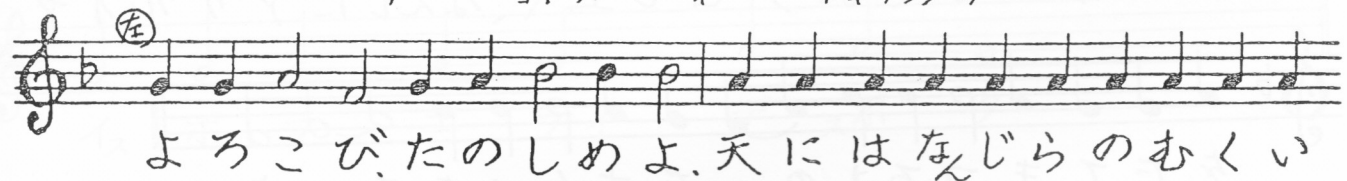
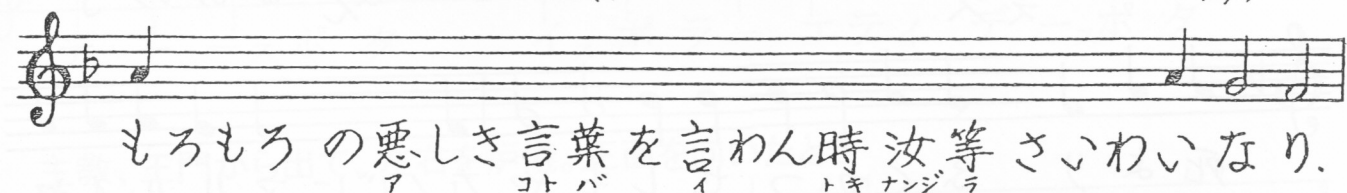
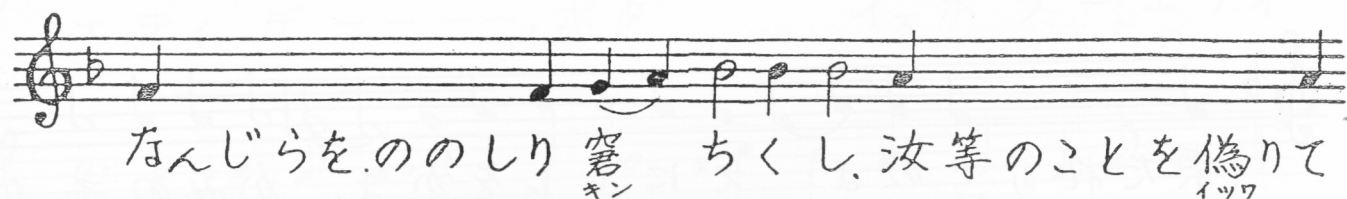
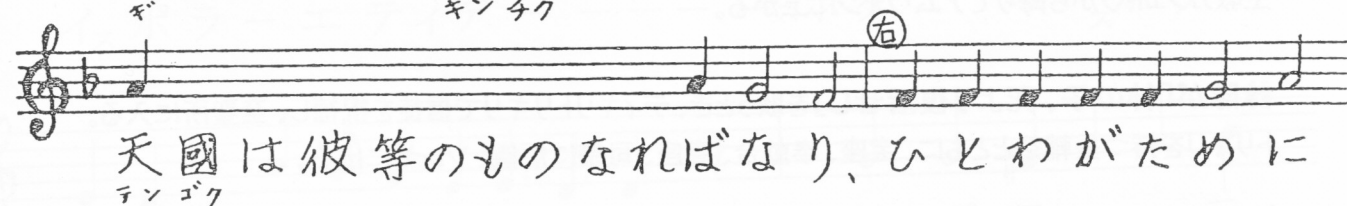
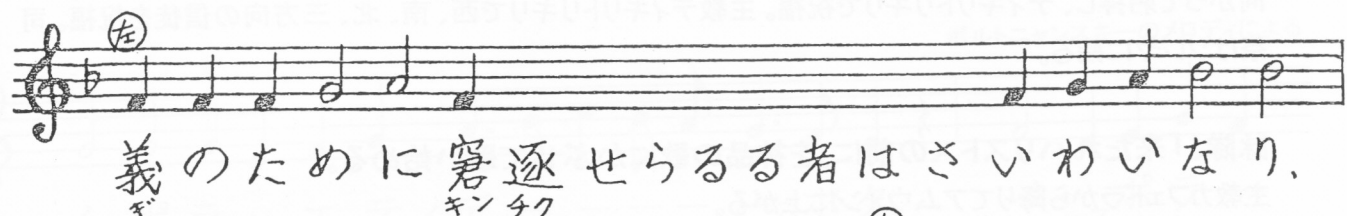
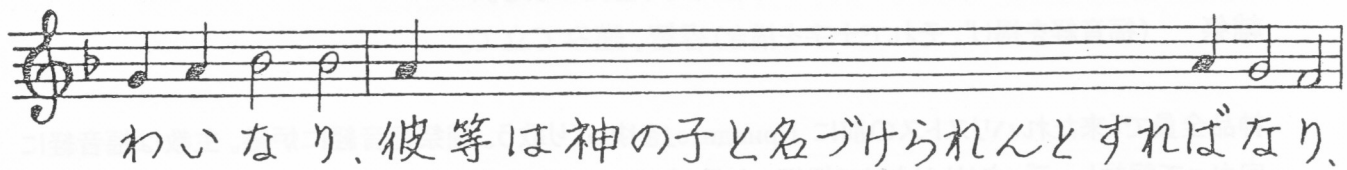
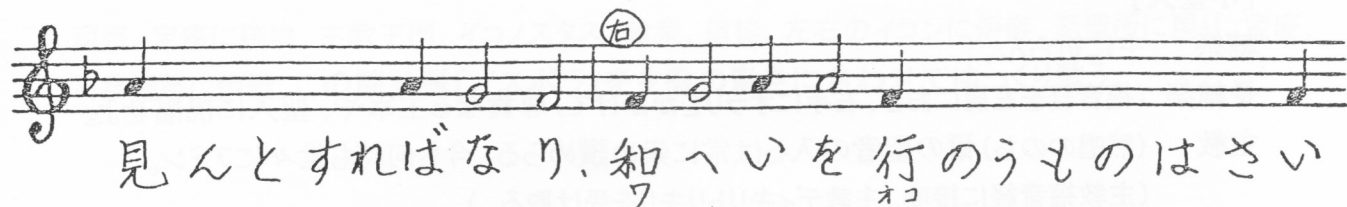
(右)

彼等は^ア飽^エくを得んとすればなり、^{アワ}憐^{アワ}れみあるものは

さいわいなり、彼等は^{アワ}憐^{アワ}れみを得んとすればなり、

(左)

こころの^{キヨ}清^{キヨ}き者はさいわいなり、彼等は神を



第3アンティフォンの最後に、福音經などを捧持した輔祭、司祭、副輔祭、堂役などは決められた順序に従って至聖所から出てカフェドラの主教の前に並ぶ。

〔小聖入〕

輔祭 主に祈らん、

長輔祭 (福音經を左肩におき、右手にオラリをかかげて) 尊貴なる主宰や、聖入に祝福せよ。

主教 (黙唱ののち) 爾の聖者の入るは常に崇め讃めらる、今も何時も世々にアミン。

(主教福音經に接吻。主教ディキトリキリを受け取る。)

輔祭 (福音經を掲げ、それで十字を描き) 睿智、謹みて立て。

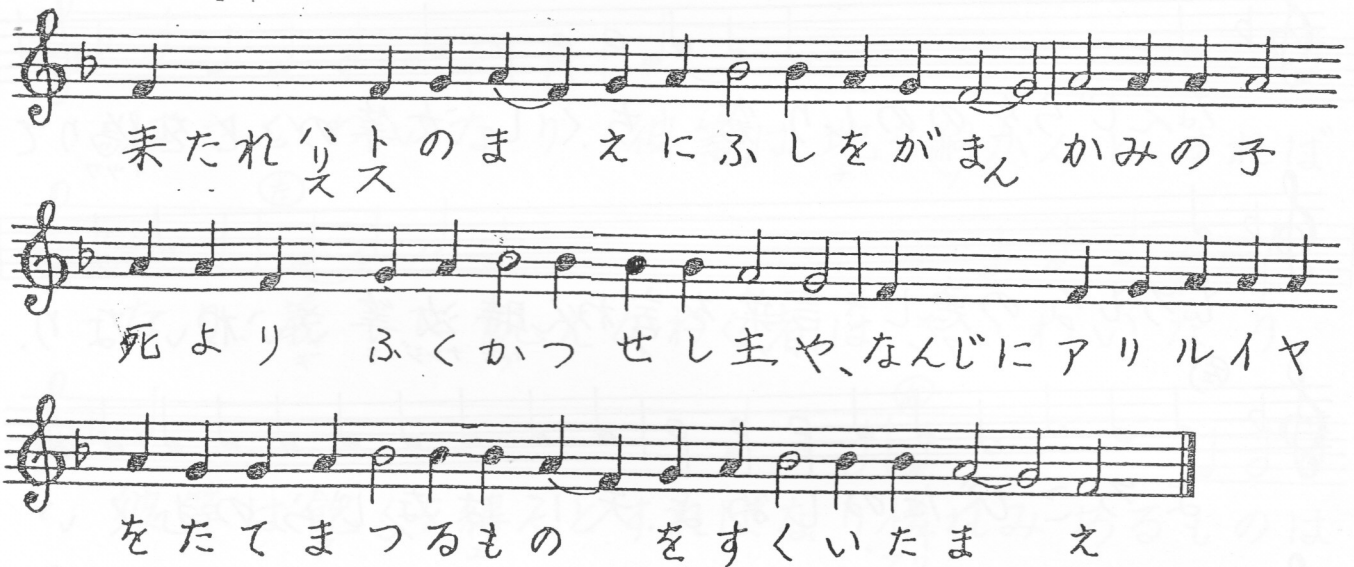
神品全員で「来たれハリストスの前に Приидите」をゆつくり歌う。輔祭福音經に炉儀。主教は福音經に向かつて躬拝し、ディキトリキリで祝福。主教ディキトリキリで西、南、北、三方向の信徒を祝福。司祭はソレヤに残る。

詠隊、「来たれハリストスの前に」を神品の歌にかぶせて歌い始める。

主教カフェドラから降りてアムウォンに上がる。

詠隊が「神の子、死より復活せし」を歌うとき、ディキトリキリで信徒を祝福し、至聖所に入る。

トリキリを持つ長輔祭とともに、宝座、奉献台、高座、司祭に炉儀、ソレヤに出る。

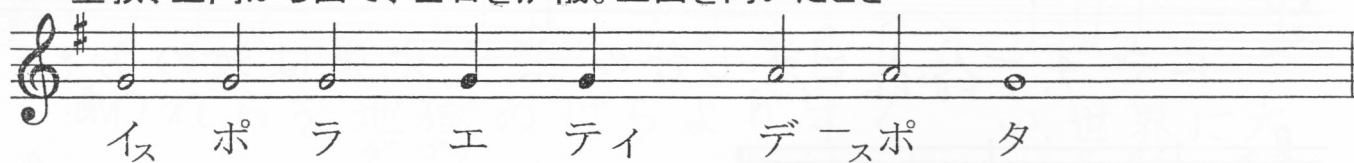


司祭、宝座に接吻。主教王門、イコノスタス、教衆、信徒、左右のイコンに炉儀、至聖所に戻り、宝座、司祭輔祭に炉儀。この間詠隊「イスポラ」を主教の動きに合わせてゆっくり歌う。

ポルトニャンスキーのメロディによる



主教、王門から出て、左右を炉儀。正面を向いたとき



神品もイスポラを歌う。

続いて「トロパリ」、「コンダク」を歌う

1 調

救世主やイウデヤの人はかを封じて、へいそつ
キユウ セイ シエ フウ

汝の潔き身を守るとき、なんじは三日目にふくか
イサギヨ ミ マモ ミツ カ メ

つして、世界に生命をたまえり、ゆえに天軍
イノチ テン グン

は汝生命をほどこすの主と呼で言う、ハリスヤ
イノチ ヨン

光栄は汝の復活に帰し、光 えいはなんじのくに
フク カツ

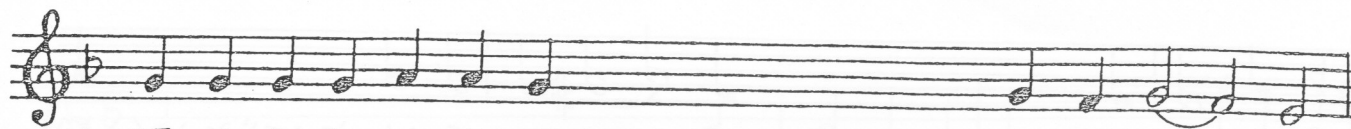
にきす、一人人を慈しむの主や、光栄は汝のおもん
ヒトリ ヒト イツク

はかりにきす

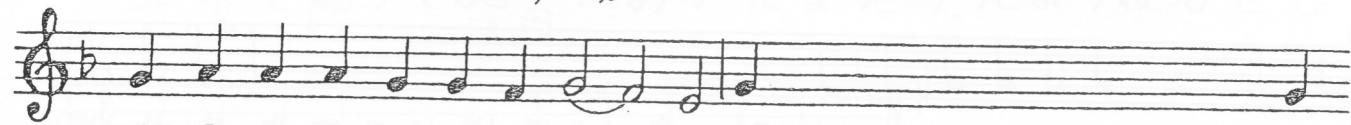
2 調

死せざるいのちや汝死にくたりしとき、

神の性のひかりにてじごくをころせり、
セイ



死せしものを地下より復活せしめしと き、
テ カ



天軍みなよんで言え り、生命をたもうの主分とわが
テン ゲン イ ノ チ ス ス

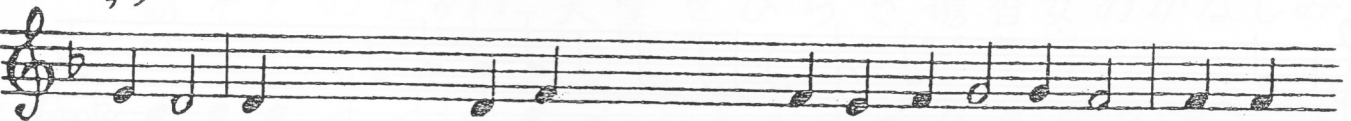


かみや、光えいはなんじに帰す

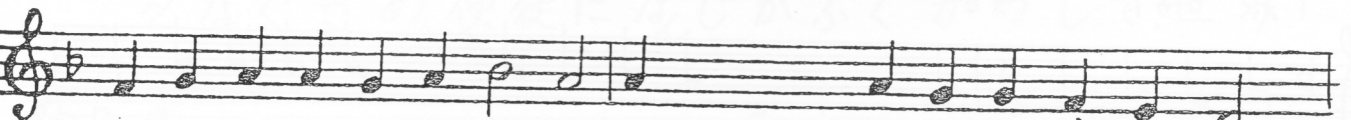
3 調



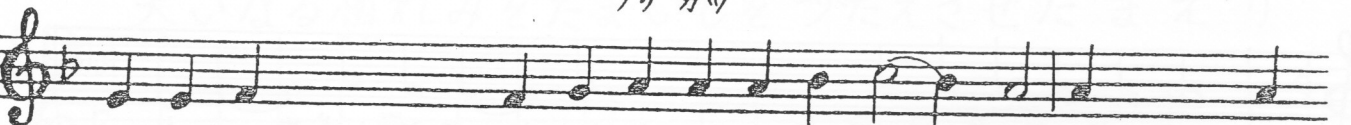
天にあるものたのしめよ、地にあるものよろこ
テン



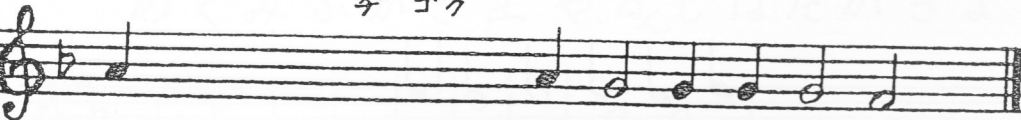
べよ、主はそのひじのちからをあらわして 死を



もって死をほろぼし、復活のはじめとな り
フ カ ッ

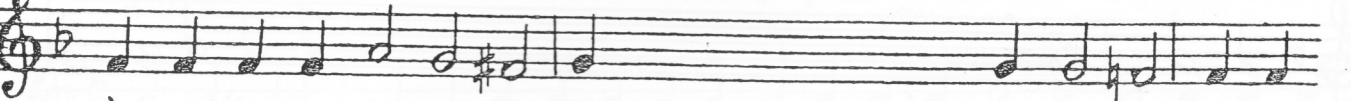


われらを地獄のはらよりすく い、世界に大
ゲ ゴ ク セ カ イ オ オ

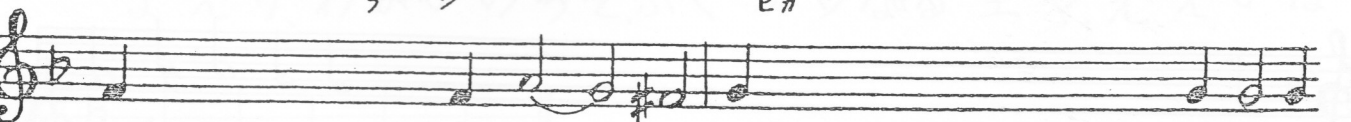


いなる憐れみをたまえばなり
ア ヲ

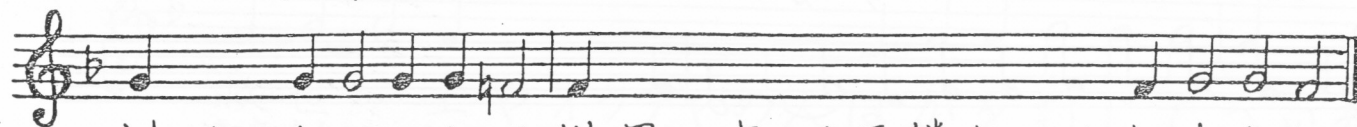
4 調



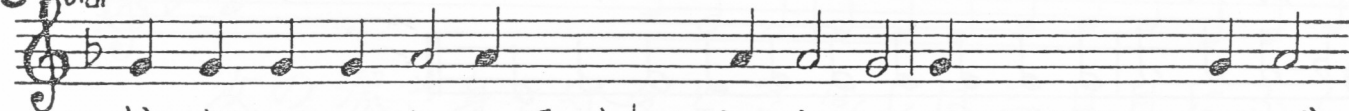
主のおんな弟子は復活の光るおとづれを、かみ
テ シ ヒ カ



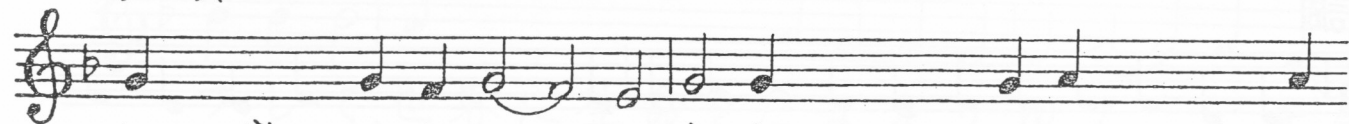
の使より聞きうけ て、元祖よりの定罪をふるい
ツ カ イ キ ガ ン ソ テ イ ゲ イ



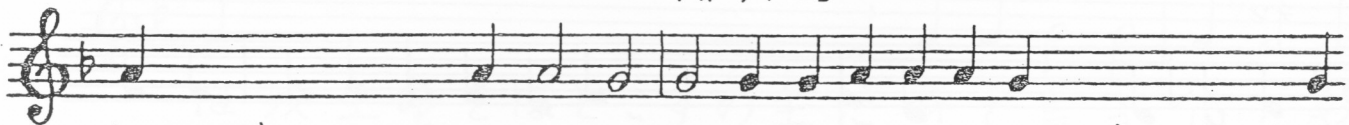
5 調



信者やちちと聖神とともに、始めなきことば
シン ジャ バジ



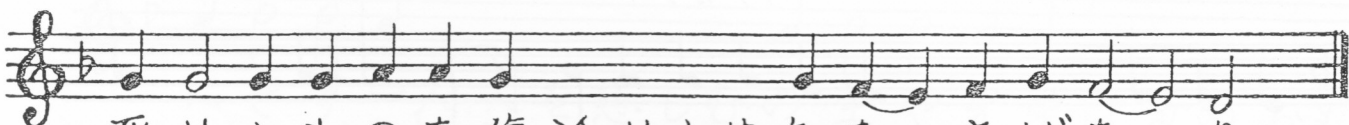
わが救いのために、童貞女よりうまれしものを
スグ ドオ テイ ジョ



讃め歌うて拝むべし、かれあまじてその身に十字架
ホ ウト オガ

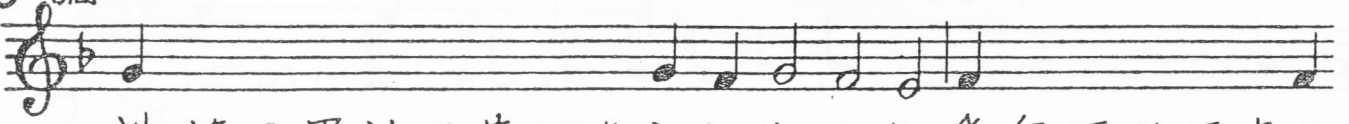


にのぼり、死を忍びその光栄のふくかつにて、
シン

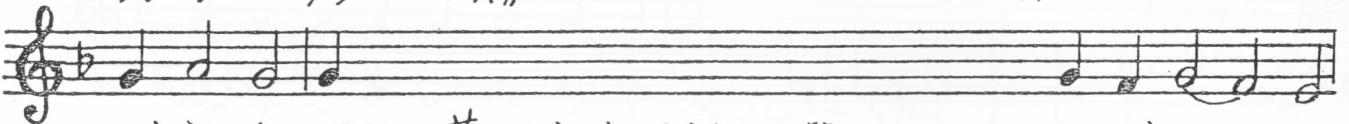


死せしものを復活せしめたまえはなり

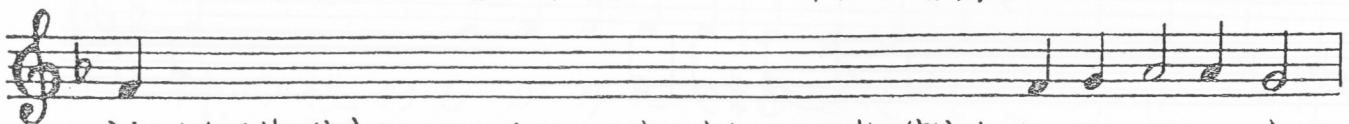
6 調



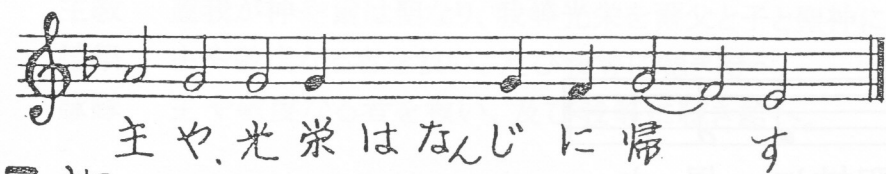
神使の軍汝の墓にあらわれしに、番兵死せる者の
シン シ グン ハカ バン ペイ



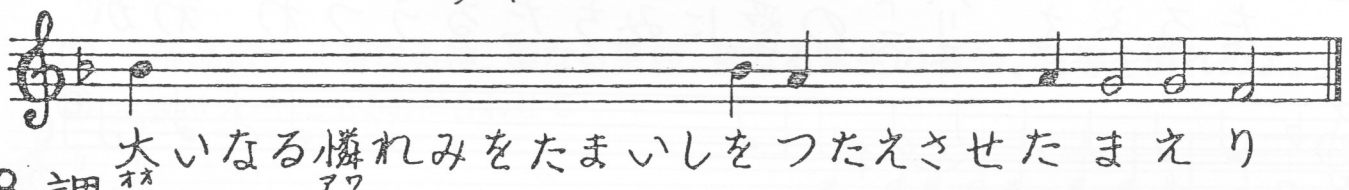
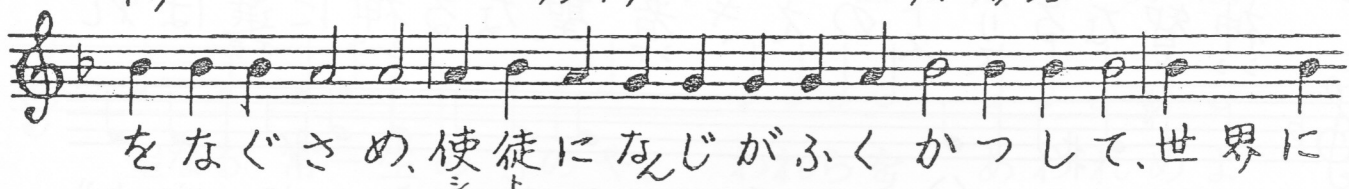
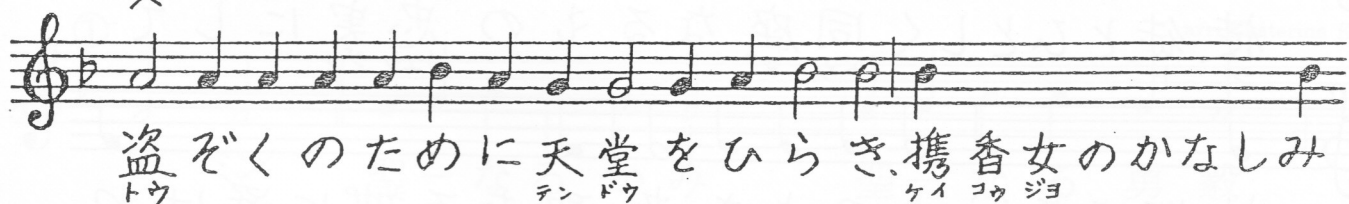
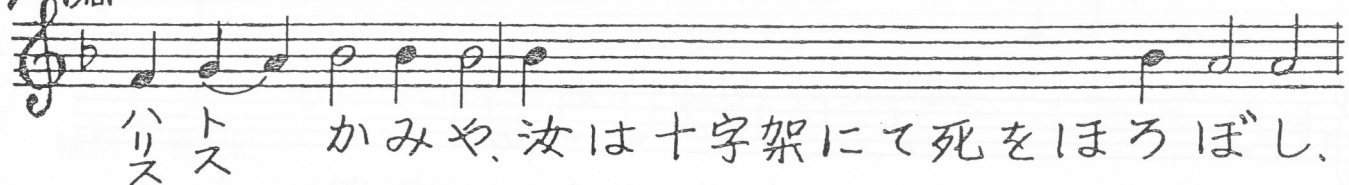
ごとし、マリヤ墓に立ちて汝の潔よき体をたづねり
ハカ タ イサギ カラダ



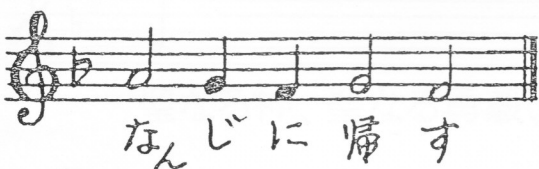
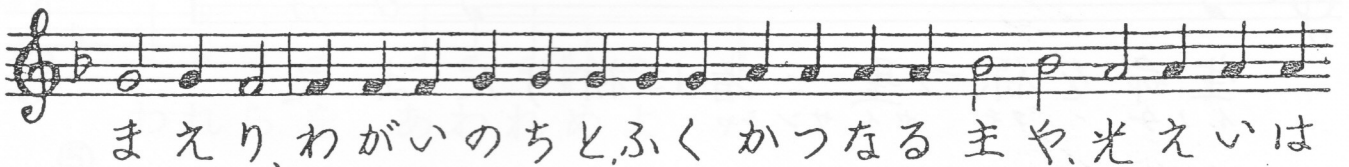
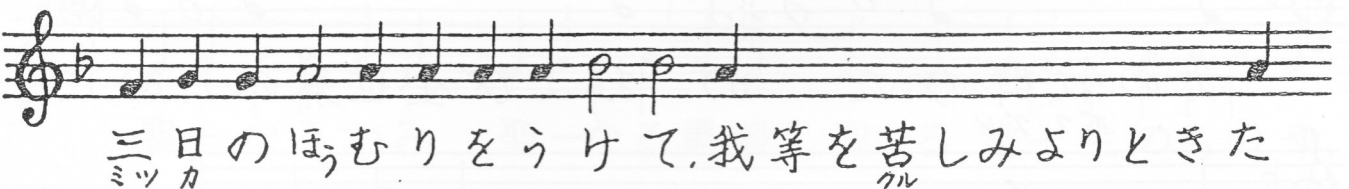
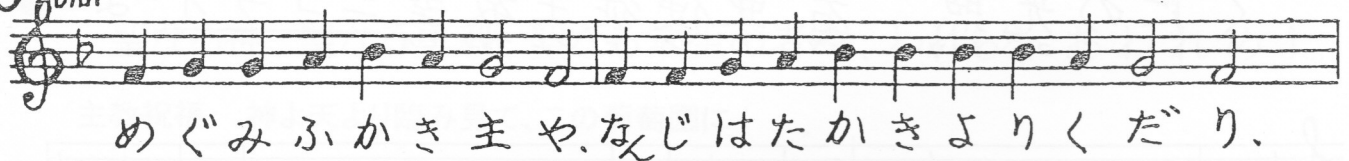
汝は地獄にいざなわれずして地獄をとりこにし、
ジ ゴク ジ ゴク



7 調

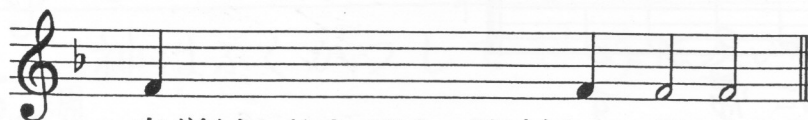


8 調

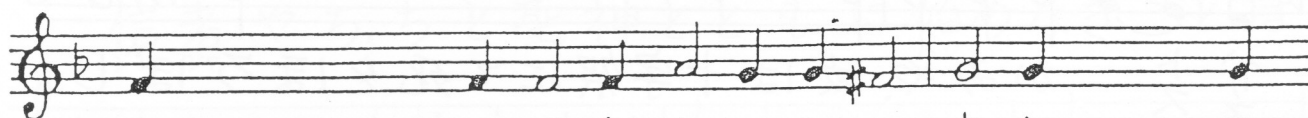


〔聖使徒聖ニコライのトロパリ〕（4調のメロディによる）

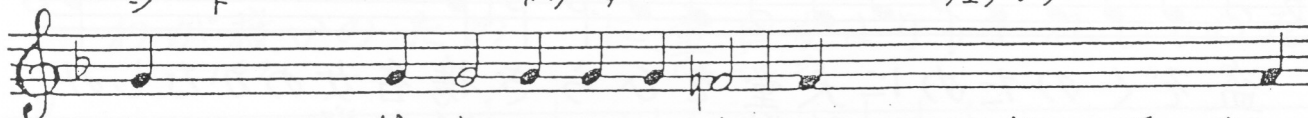
主日トロパリに続いて「光栄は父と子と聖神に帰す」を歌ってから。



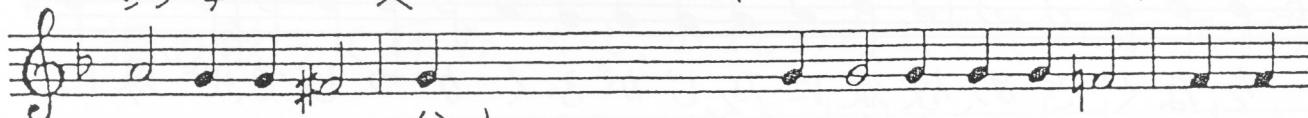
光栄は 父と子と 聖神に 帰す



使徒とひとしく同座なるもの忠実にして
シ ト ドウ ザ ユ ジツ



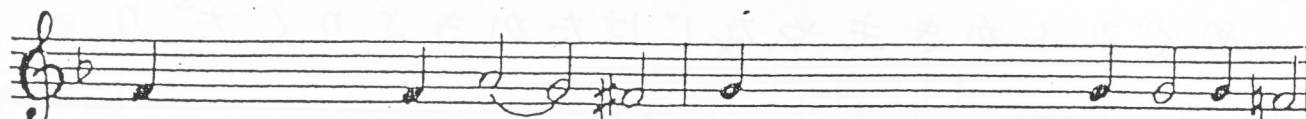
神智なる^{シンチ}ハ^ススのえき者^{シャ}聖なる神に選ばれ
シ シン エラ



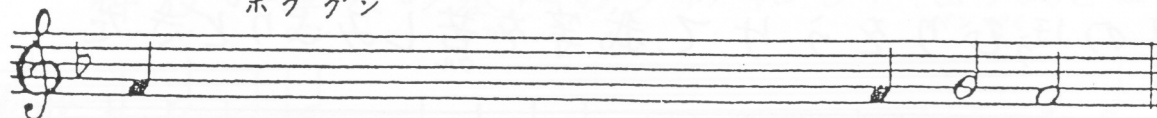
たるふえ^{ハス}スの愛にみちたるうつわ わが
ス



くにの光照^{コウ}者^{ショウ}聖使徒主教聖ニコライよ
コウ ショウ シャ ア シ ト シュ キョウ セイ



汝の牧群のためおよび全世界のために
ボフ グン



生命を保つ聖三者に祈りたまえ
イノチ タモ セイ サン シャ

ニコライのトロパリが終わると神品は「今も」に生神女のコンダク「生神女や我等爾の僕婢は
Взбранной Воеводе」を歌う。

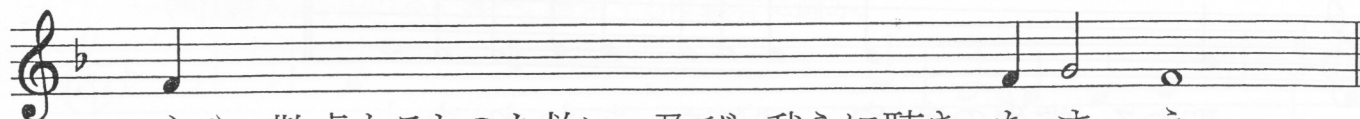
輔祭 主に祈らん、

詠隊 主憐めよ、

主教 蓋我が神や爾は聖なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も、

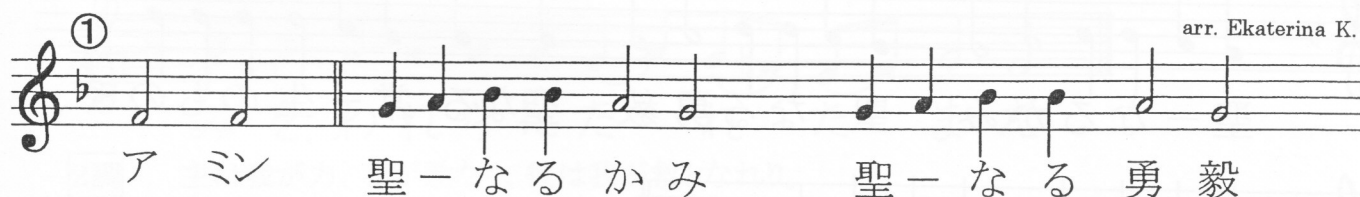
輔祭 主や敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給へ。

詠隊 主や敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給へ。

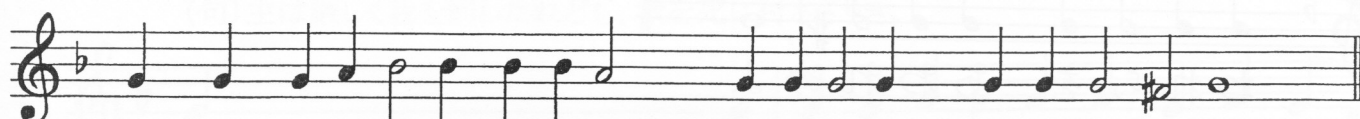


主や、敬虔なるものを救い、及び、我らに聴き た ま え

輔祭 世世に

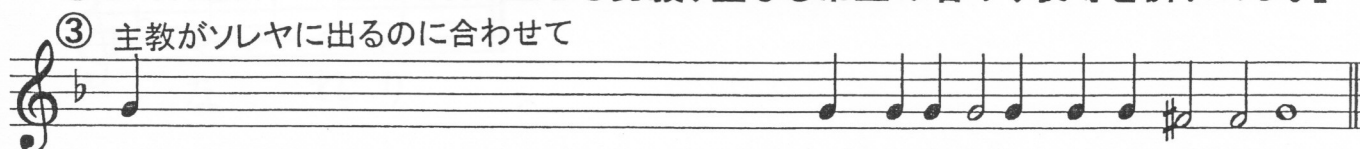


ア ミン 聖 - なる か み 聖 - なる 勇 毅



聖なる 常 - 生 の も の や、 われらを あわれめよ

② 神品歌う「聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐れめよ。」

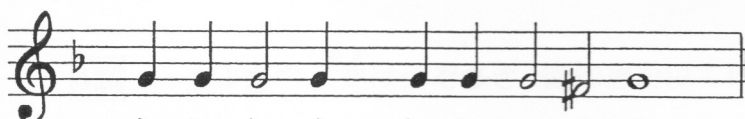


③ 主教がソレヤに出るのに合わせて
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、われらを あわれめよ。

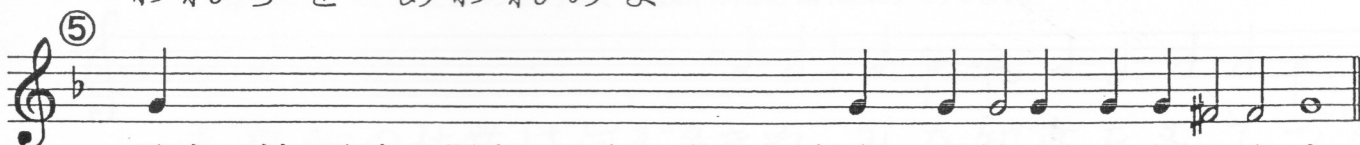
主教祝福： 神よ天より臨み見て、この葡萄園に



聖 - なる か み 聖 - なる 勇 毅 聖なる 常 - 生 の も の や、

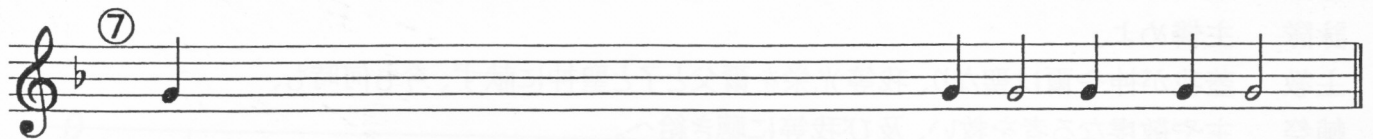


われらを あわれめよ

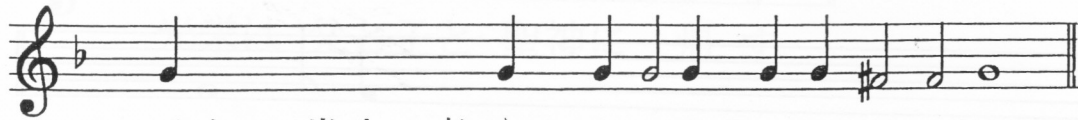


聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を あわれめよ

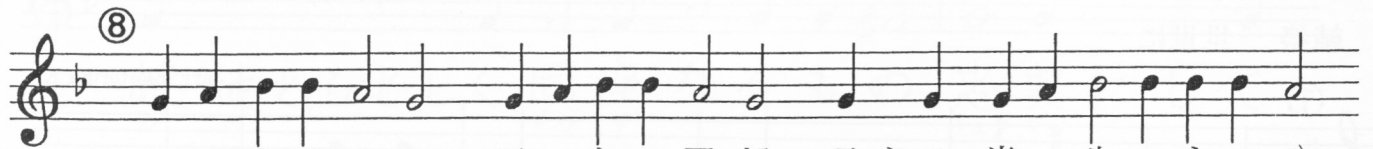
⑥ 神品歌う「聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐れめよ。」



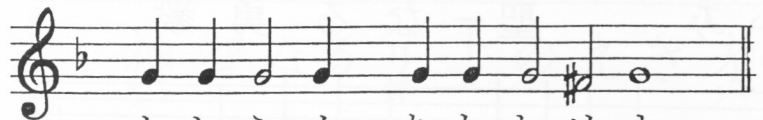
光栄は 父と子と 聖神に 歸す、今も 何時も 世 々 に アミン



聖なる 常生の者 や、我等を あわれめよ



聖一なるかみ 聖一なる勇毅 聖なる 常一生のものや、



われらを あわれめよ

[主日ポロキメン]

輔祭 謹みて聴くべし、

主教 衆人に平安、

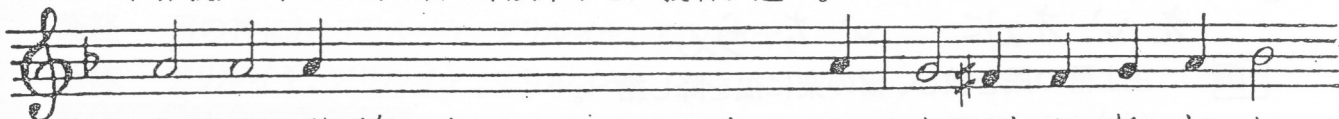
誦経 爾の神にも、

輔祭 睿智

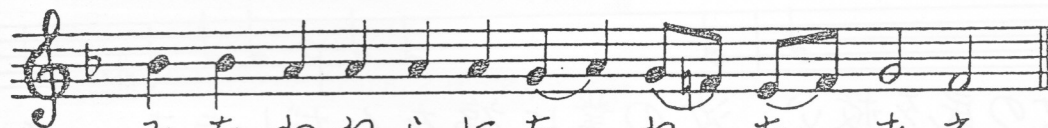
誦経 ポロキメン

1調 主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐れみを我等に垂れ給へ。

(句) 義人よ、主の為に喜べ、讃栄するは義者に適ふ。



主や我等汝をたのむが如く なんじのあわれ



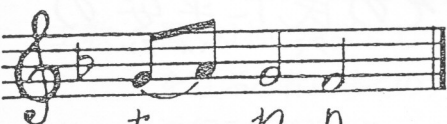
みをわれらにた れ た ま え

2調 主は我が力、我が歌なり、彼は我が救となれり。

(句) 主は厳しく我を罰したれども、我を死に付さざりき。



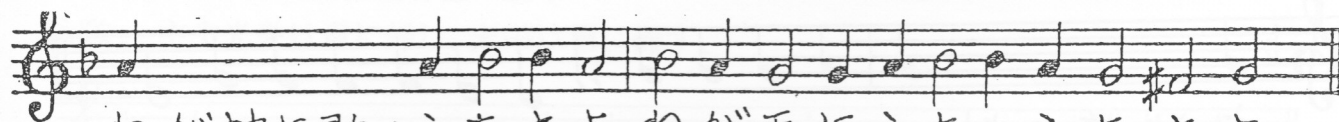
主はわが力とわが歌なり かれはわがすくいと



な れ り

3調 我が神に歌ひ歌へよ、我が王に歌ひ歌へよ。

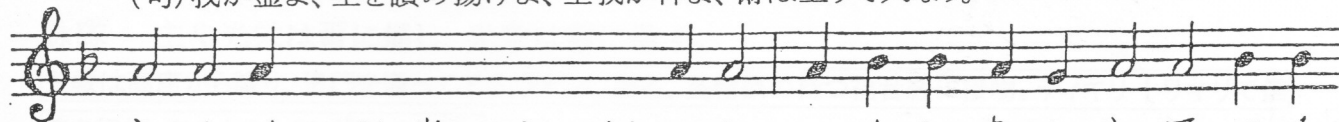
(句) 萬民よ、手を拍ち、喜びの声を以て神に呼べ。



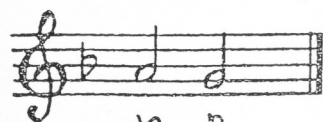
わが神に歌いうたえよ わが^{キョウ}王にうたいうたえよ

4調 主よ爾の^{しわざ}工業は何ぞ多き、皆知恵を以て作れり。

(句) 我が霊よ、主を讃め揚げよ、主我が神よ、爾は至りて大なり。



主や汝の^{シワザ}仕業は何ぞ多きや ^{チエ}みな知恵をもつてつく

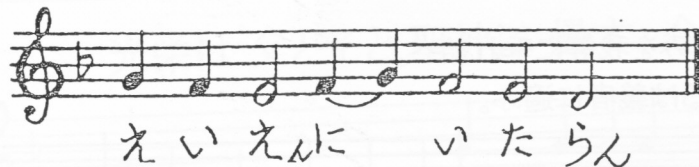
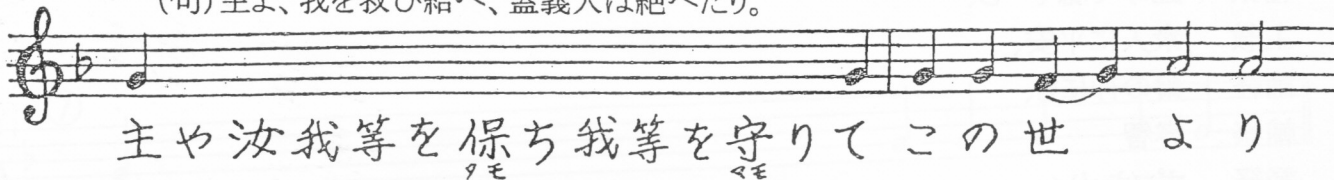


れり

5調

主よ、爾は我らを保ち、我らを護りて、この世より永遠に至らん。

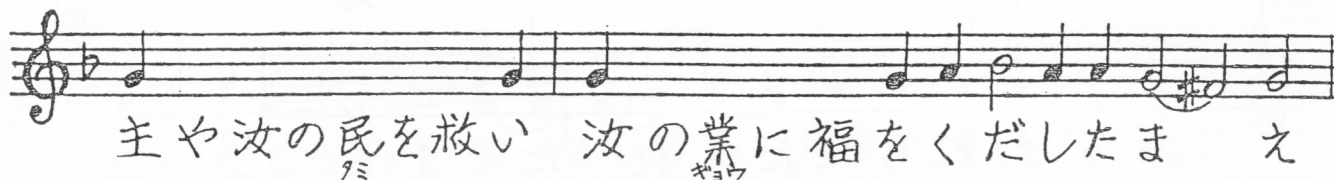
(句) 主よ、我を救ひ給へ、蓋義人は絶へたり。



6調

主よ爾の民を救ひ、爾の業に福を降し給へ。

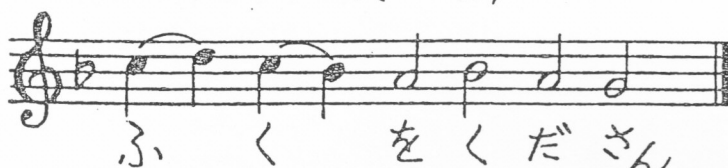
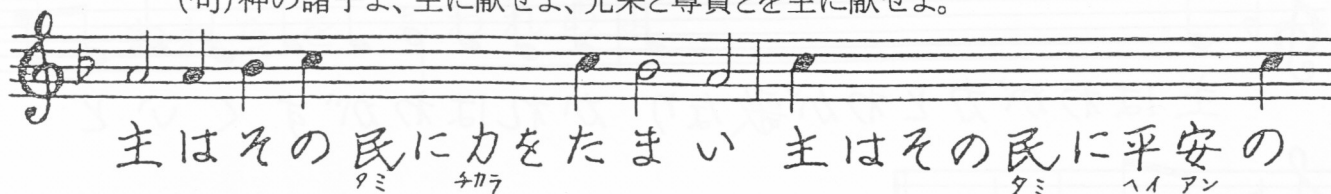
(句) 主よ、我爾に呼ぶ、私の防固よ、我が為に黙す母れ。



7調

主は其の民に力を賜ひ、主は其の民に平安の福を降さん。

(句) 神の諸子よ、主に献ぜよ、光栄と尊貴とを主に献ぜよ。



8調

主爾の神に誓を作して償へよ。

(句) 神はイウデヤに知られ、その名はイズライリに大なり。



〔使徒経の読み〕

輔祭 睿智

誦経 聖使徒パウエルが〇〇に達する書の読み、

輔祭 謹みて聴くべし、

誦経 (使徒経を読む)

〔福音前のアリルイヤ〕(アリルイヤの句が省略されて3度歌うだけになっていることもある)

主教 爾に平安

誦経 爾の神にも、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

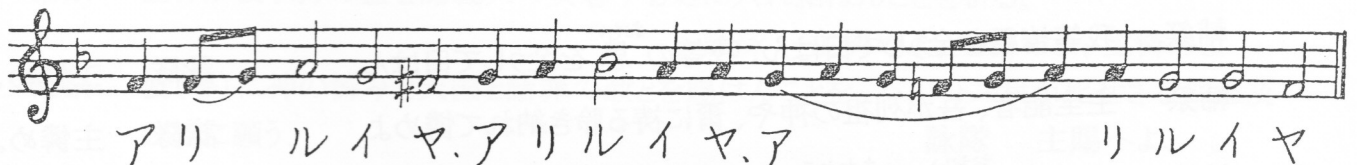
詠隊 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

誦経 アリルイヤの第1句

詠隊 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ

誦経 アリルイヤの第2句

詠隊 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ



〔福音経の読み〕

輔祭 君や、聖使徒及び福音者(某)の福音を宣ぶる者に祝福せよ、

主教 願くは神、光栄にして讃美たる聖使徒及び福音者(某)の祈祷によって、爾福音を宣ぶる者に多くの力ある言を賜はん、その至愛の子我が主イイススハリストスの福音の行るるが為なり。

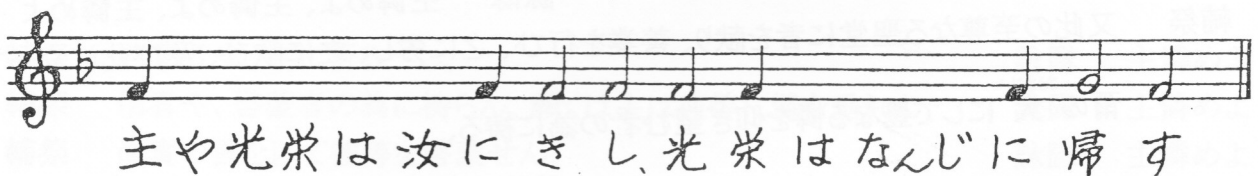
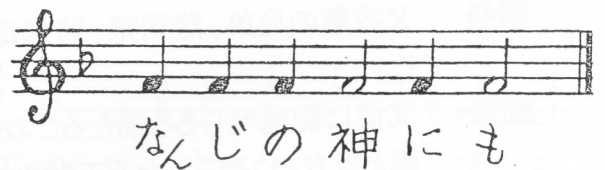
輔祭 睿智、謹み立て、聖福音経を聴くべし

主教 衆人に平安

詠隊 爾の神にも

輔祭 (某)による聖福音経の読み

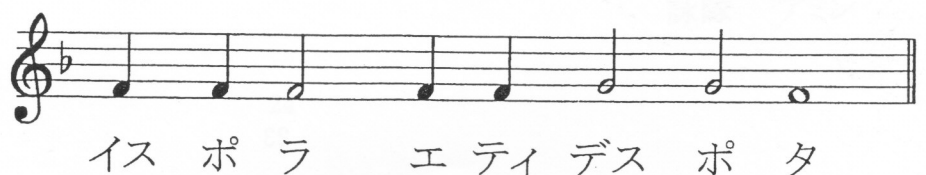
詠隊 主や光栄は爾に帰し、光栄は爾に帰す、



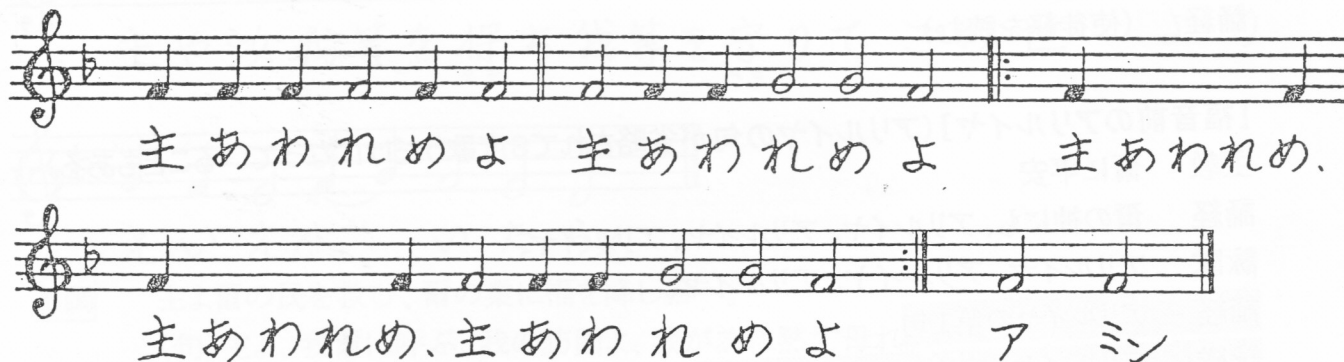
輔祭 (福音経を読む)

詠隊 主や光栄は爾に帰し、光栄は爾に帰す、

主教は高座から降り、王門を通してアムウオンに出る。長輔祭の持つ福音経に接吻。ディキリ・トリキリで信徒を祝福。このとき「イスポラ」を歌う。



[重連祷]



輔祭 我等皆霊を全うして曰はん、我等の^{おもい}思を全うして曰はん、 詠隊 主憐めよ

輔祭 主全能者、吾が列祖の神や、爾に禱る聆き納れて憐めよ、 詠隊 主憐めよ

輔祭 神や爾の^{おおい}大なる^{あわれみ}憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、

詠隊 主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ

輔祭 我が國の天皇及び國を司るものの為に主に禱らん、

詠隊 主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ

輔祭 又教會を司る尊貴なる我等の[）]府主教及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に禱る、 詠隊 主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ

輔祭 又我等の兄弟、諸司祭、諸修道司祭、及びハリストスに於ける我等の衆兄弟の為に禱る、 詠隊 主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ

輔祭 又恒に記憶せらるる福たるこの聖堂の建立者、及び已に寐りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の為に禱る、

詠隊 主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ

輔祭 又此の至尊なる聖堂に者を献り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ちて

爾の^{おおい}大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の為に禱る、

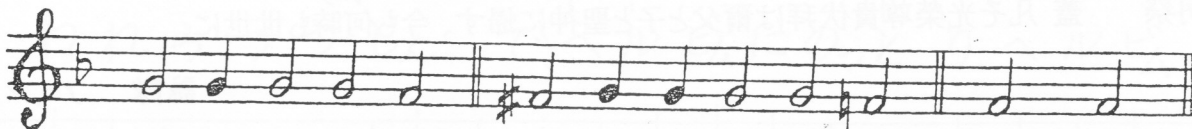
詠隊 主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ

司祭 ^{けだし}蓋、爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何も世世に、 詠隊 アミン

[死者の連禱]行わないこともある



主 あわれめ、主 あわれめ、主 あわれめ よ



主 たまえよ 主 あわれめよ ア ミン

輔祭 神や爾の ^{おおい}大なる ^{あわれみ}憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、

詠隊 主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

輔祭 又、寝りし神の奴婢(某)の霊の安息の為、及び彼(等)に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが為に祈る、

詠隊 主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ

輔祭 主神が彼(等)の霊を諸義人の安息する処に入れ給はんことを祈る、

詠隊 主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ

輔祭 彼(等)に神の憐みと天国と諸罪の赦とを賜はんことを、ハリストス我が死せざるの王及び神に願う、

詠隊 主賜へよ、

輔祭 主に祈らん、

詠隊 主憐めよ

司祭 蓋、ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の奴婢()の復活と生命と安息なり。我等光栄を爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に、

詠隊 アミン

[啓蒙者の連禱]



主 あわれめよ 主 あわれめよ 主 なんじに ア ミン

輔祭 啓蒙者や、主に祈るべし、

詠隊 主憐めよ

輔祭 信者や、啓蒙者の為に禱らん、願くは主は彼等に憐を垂れん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 眞實の言を以て彼等を啓蒙せん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 義の福音經を彼等に啓かん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 彼等をその聖公使徒の教會に一にせん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、彼等を救ひ憐み佑け護れよ、

詠隊 主憐めよ

輔祭 啓蒙者や、爾等の首を主に屈めよ、

詠隊 主爾に

司祭 願くは彼等も我等と偕に、爾父と子と聖神の至尊至榮の名を讃揚せん、今も何時も世世に、

詠隊 アミン

輔祭 衆啓蒙者出でよ、啓蒙者出でよ、衆啓蒙者出でよ、啓蒙者一人もなく、唯信者復^{またまた}又安和にして主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救ひ憐み護れよ、
輔祭 叡智

詠隊 主憐めよ

司祭 ^{けだし}蓋 凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に帰す、今も何時^{いつ}も世世に、

詠隊 アミン

[信者の連祷]

輔祭 我等復又安和にして主に祈らん、

詠隊 主憐めよ

-----輔祭のいないときは省略-----

輔祭 上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来たる者の為に主に祷らん、

詠隊 主憐めよ

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祷らん

詠隊 主憐めよ

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を佑け救ひ憐み護れよ、

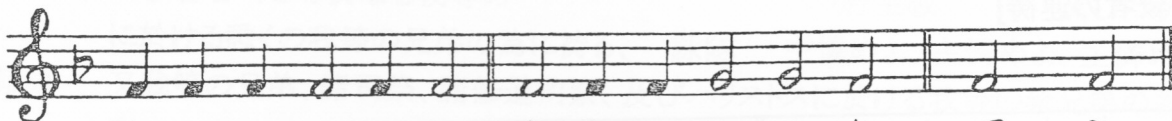
詠隊 主憐めよ

-----輔祭のいないときは省略-----

輔祭 叡智

司祭 我等常に爾が権柄の下に護られて、光榮を爾父と子と聖神に献ずるが為なり、今も何時も世世に、

詠隊 アミン。



主あわれめよ 主あわれめよ アミン

[大聖入]

われらつつしんで、ヘルムにのとり、ヘルム
 にのとり、せいさんのうたをいのちをほど
 こすの、せい三_{サン}者_{ジャ}に、たてまつりて、この世の
 つとめを、しりぞくべし、しりぞくべし

主教 願くは主神はその国に於いて、我が国の天皇及び国を司るものを常に記憶せん、今も何時も世世に、

主教 願くは主神はその国に於いて教会を司る我等の
 を常に記憶せん、今も何時も世世に、

詠隊 アミン

主教 願くは、主神はその国において常に記憶せらるる(某)記憶せん、今も何時も世世に、

主教 願くは主神はその国において爾衆正教のハリストティアニン等を常に記憶せん、今も何時も世世に、

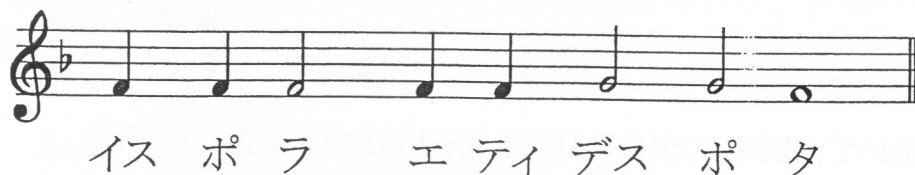
詠隊 アミン

(2回)



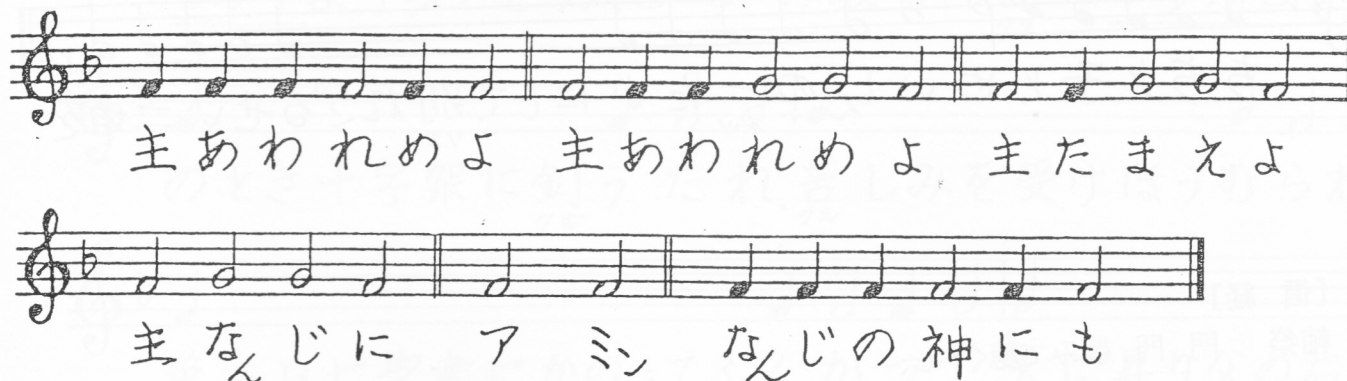
ア ミン かみのなみいるつかいは見え^ニずして荷な
 いたてまつる、^んぶつのつかさを、^あおいただけは
 なり、アリルイヤ、ア リルイヤ、アリルイヤ、アリ
 ルイヤ

主教はディキリトリキリで信徒を祝福、イスポラを歌う。



イス ポ ラ エ ティ デ ス ポ タ

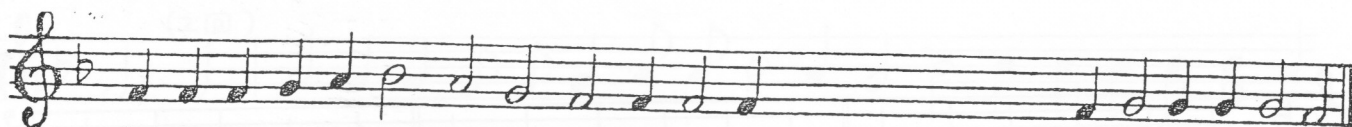
[増連祷]



輔祭	我等主の前に我が祈りを増し加へん、	詠隊	主憐めよ
輔祭	献げたる尊き祭品の為に主に祈らん、	詠隊	主憐めよ
輔祭	子の聖堂及び信と慎みと神を畏るる心とを以て此に来たるものの為に主に祈らん、	詠隊	主憐めよ
輔祭	我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祈らん、	詠隊	主憐めよ
輔祭	神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、	詠隊	主憐めよ
輔祭	此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、	詠隊	主賜へよ
輔祭	平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、	詠隊	主賜へよ
輔祭	我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、	詠隊	主賜へよ
輔祭	我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、	詠隊	主賜へよ
輔祭	我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、	詠隊	主賜へよ
輔祭	我等の生命の終が「ハリスティアニン」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリスツスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、	詠隊	主賜へよ
輔祭	至聖、至潔にして、至りて讃美たる我等の光栄の女宰、生神女、永貞童女マリヤと諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て並に悉くの我等の生命を以てハリスツス神に委託せん、	詠隊	主爾に、
司祭	爾の独生子慈憐に因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の ^{しん} 神と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に、	詠隊	アミン
輔祭	衆人に平安	詠隊	爾の ^{しん} 神にも

〔安和の接吻〕

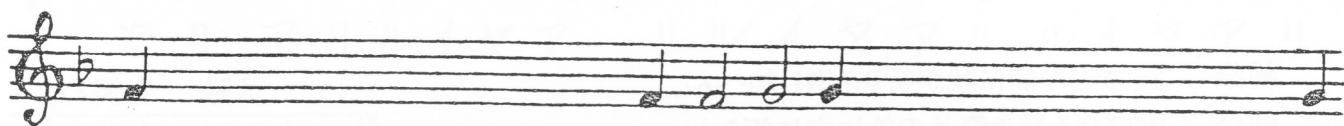
輔祭 我等、互に相愛すべし、同心にして承け認めんが為なり、



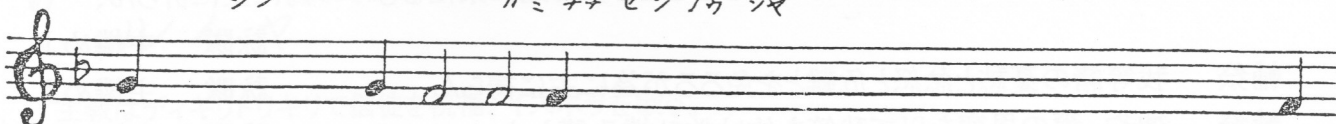
ちちと子とせいしんの^{イツ}一たいにして別^{ワカ}れざるせい三者を

〔信 経〕

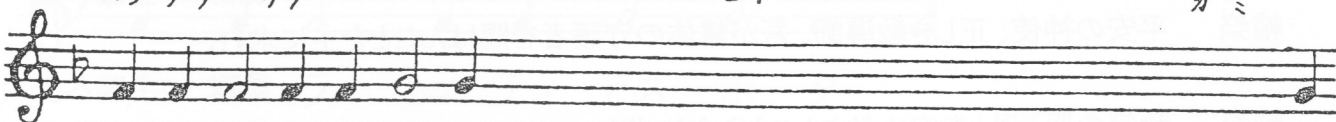
輔祭 門、門、敬みて聴くべし、



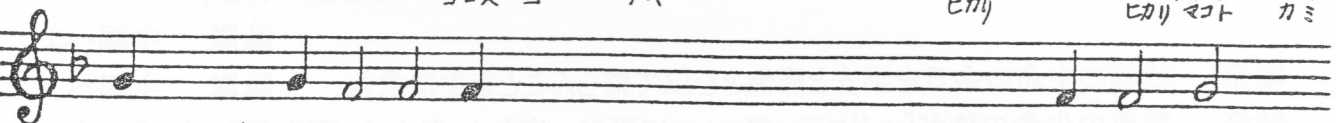
われ信^{シン}ず^{ヒト}一つの神父全能者、天と地、見ゆると見えざる



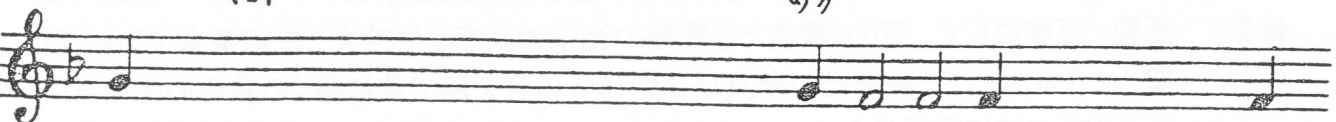
万物を造^{バン}りし主^{ブツ}を、また信^{ツク}ず^{ヒト}一つの主イススハリストス神^{カミ}の



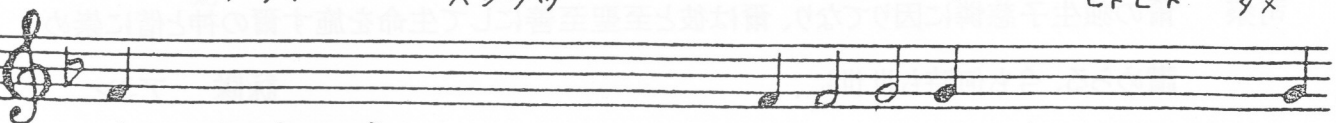
どくせいの子、万^{ヨロズ}世の^ヨ前に父より生れ光^{ヒカリ}よりの光^{ヒカリ}真^{マコト}の神^{カミ}



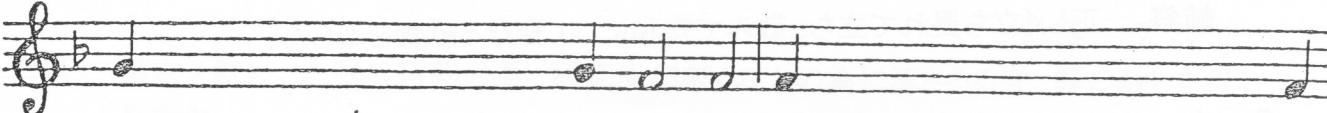
よりの真^{マコト}のかみ生れしものにて造^{ツク}られしにあらず、

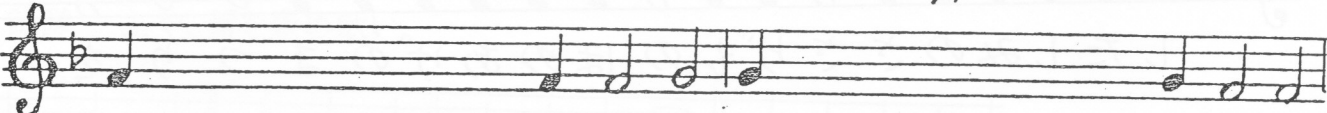


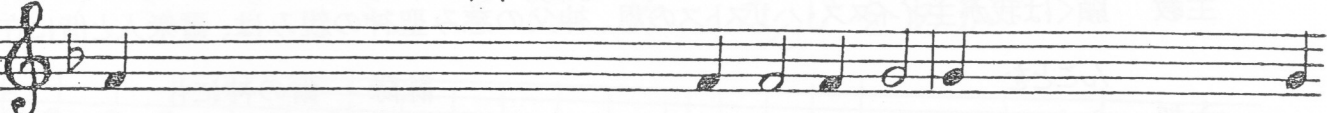
父と一^{イツ}体^{タイ}にして万物^{バンブツ}かれにつくられ、我等^{ヒトヒト}人人^{タメ}の為

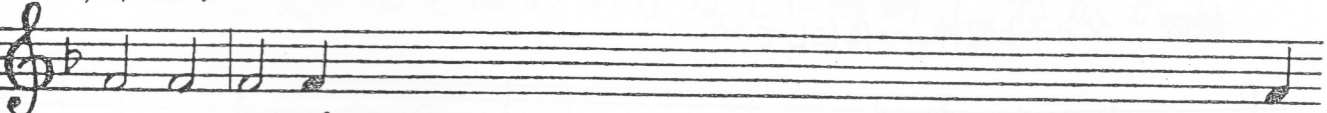


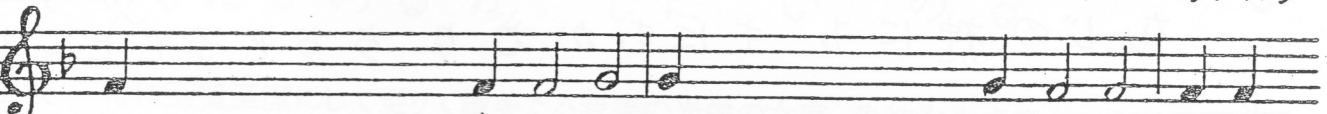
また我等^{スグ}の救いの為に天よりくだり、聖神^{オヨ}及び童貞女^{ドウテイジョ}

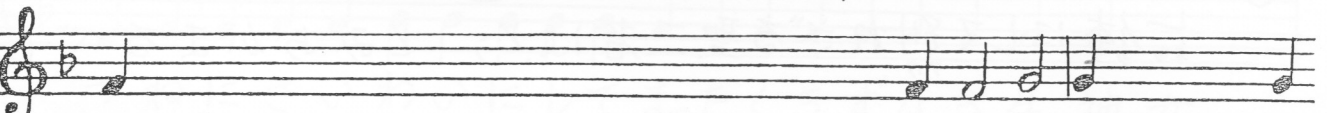

 マリヤより身をと^リ人とな^り、我等の^タ為に^タホ^ンテ^イピ^ラト

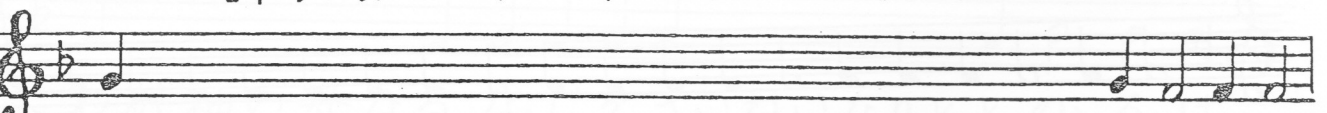

 のとき十字架に^{クギ}釘^{クル}うたれ、苦^{クル}しみを受けほうむられ、

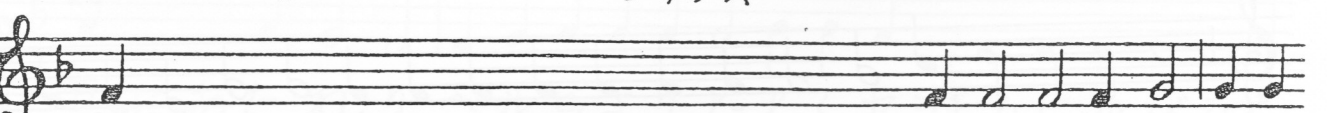

 第三^{ダイ}日^{サン}に^{ジツ}聖^{セイ}書^{ショ}にかの^うてふくかつし天^{テン}に^{ノボ}昇^{ノボ}り父の右に

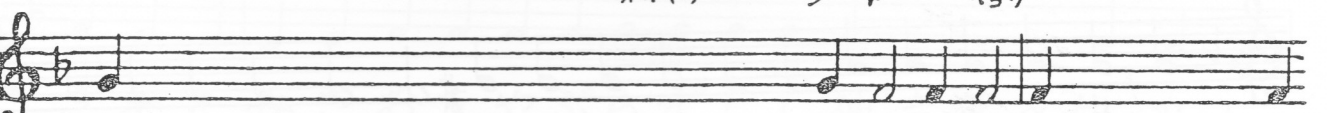

 坐^ザし、光^ア栄^ラを^イ顯^シわして生^イけるものと死^シせしものを審^{シン}判^{パン}

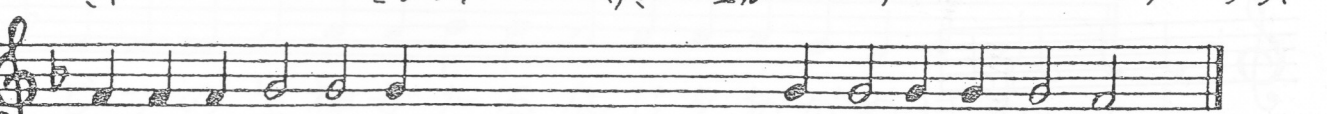

 するた^めにまた来^{クニ}たり、その^{オワ}國^{オワ}終^ヲりなからんをまた


 信^{セイ}ず^{シン}聖^{シユ}神^イ主^{ノチ}生^{ホドコ}命^{ホドコ}を施^{ホドコ}すもの父より出^デで父および子


 と共^ニに^{オガ}拝^{オガ}まれ、ほめられ^ヨ予^{ゲン}言^ヤ者^ヤをもつてか^ッってい^イしを、


 また信^{ヒト}ず^{ヒト}一^{ヒト}つの聖^{オオヤケ}なる公^{シト}なる使^{シト}徒^{キョウ}の教^{キョウ}かいをわれ


 認^{ミト}む一^{ミト}つの洗^{セン}礼^{レイ}もつて罪^{ツミ}の許^{エル}しを^ウ得^ウるをわれ望^{ノゾ}む死^シ者^{ジャ}


 のふくかつならびに^{ライ}来^{セイ}世^{セイ}のいのちをア^ミン

〔平和の憐れみ(親しみの捧げもの)〕

輔祭 正しく立ち畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる献物を奉らん、



したしみのささげものほめあげのまつりを

主教ディキリ・トリキリで衆人を祝福

主教 願くは我が主イイス・ハリストスの恩、神父の慈^{かみちち}み聖神の親みは、爾衆人と偕に在ら

んことを

詠隊 爾の神にも

主教 心上に向ふべし、

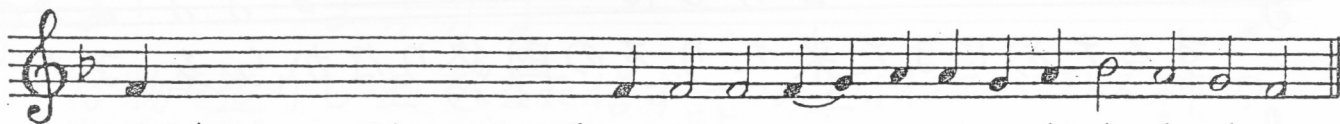
詠隊 主に向かへり、

主教 主に感謝すべし

詠隊 父と子と聖神、一体にして……



なんじの神_{シン}にも 主にむかえり ちちと子とせい神_{シン}、



一体_{イツタイ}にして別_{ワカ}れざる聖三者は、とみおがまるべし

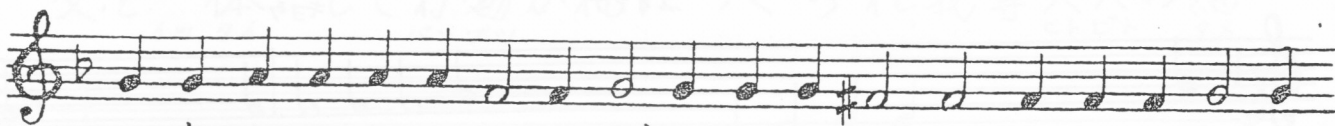
主教 凱歌を歌ひ、よび叫びて曰く、



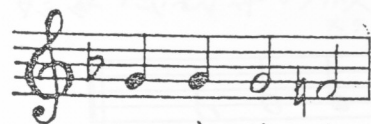
せい、せい、せいなる主サワ_{コオ}お、天地になんじの光



えいはあまねしいとたかきにオサナ、主の名に



て来たるものはあがめほめらる、いとたかき



にオサナ

主教 取りて食へ、是我が体、爾等の為に擘かるる者、罪の赦を得るを致す。

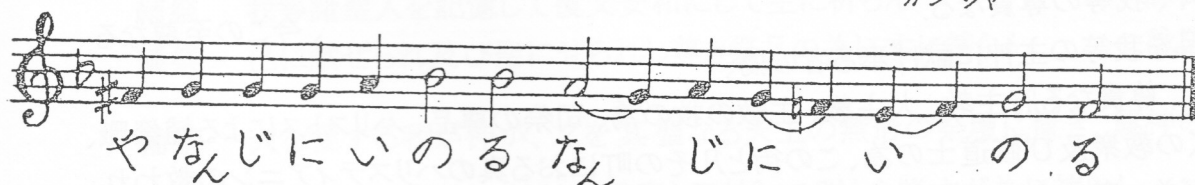
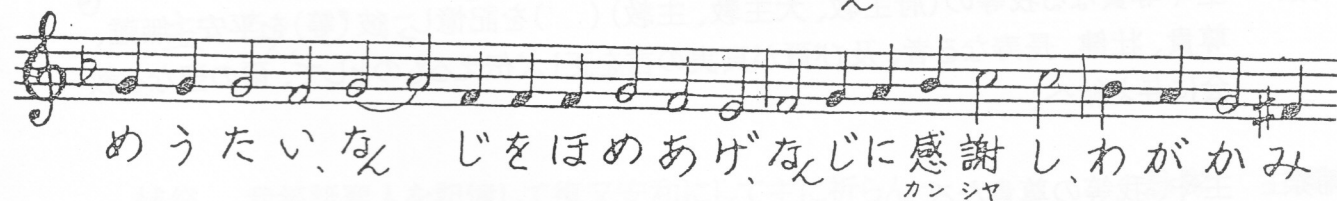
詠隊 アミン

主教 皆之を飲め、之我の新約の血、爾等及び衆くの人々の為に流さるる者、罪の赦しを得るを致す、

詠隊 アミン

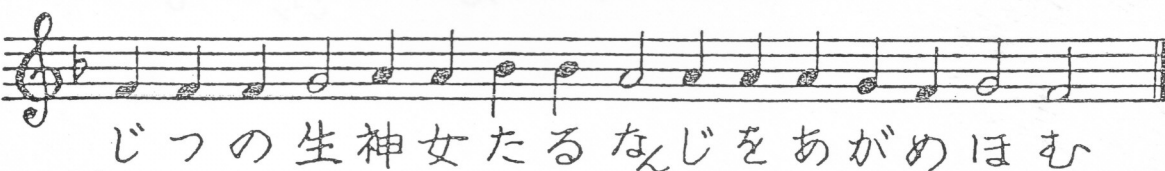
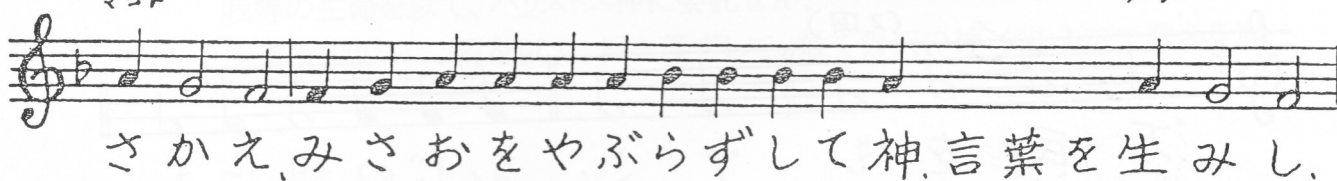
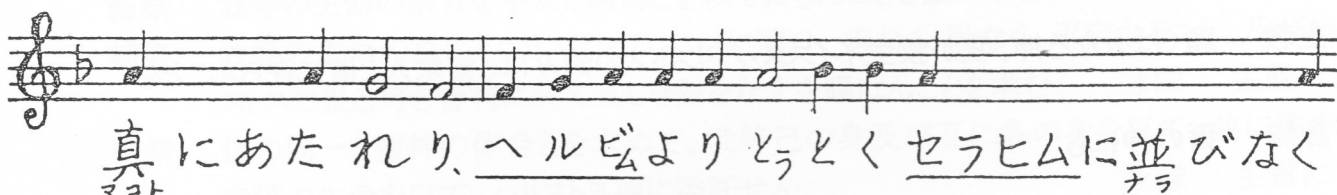
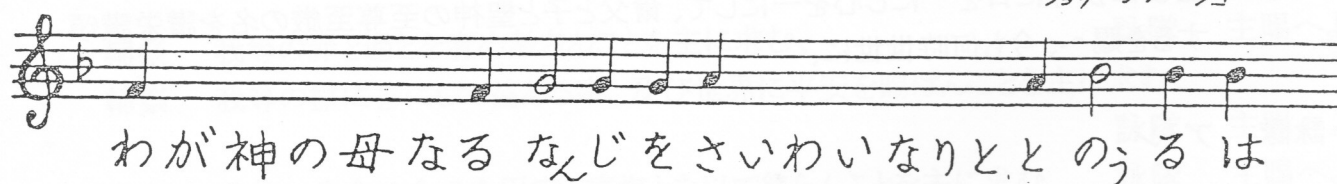
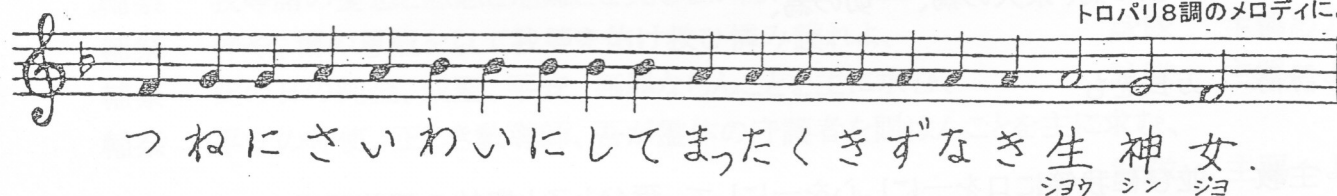
主教 爾の賜を、爾の諸僕より、衆の為一切の為に爾に献りて、

詠隊 主や、爾を崇め歌い、………



主教 特に至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰、生神女永貞童女マリヤの為、

トロバリ8調のメロディによる



長輔祭 万民をも

詠隊 万民をも

主教 主や、殊も教会を司る至聖なるモスクワ及び全ロシアの総主教アレキシイを記憶し、彼等を平安、無難、尊貴、壮健、長寿なる者、及び爾が真実の言を正しく伝えるものとして、爾の聖なる教会に与え給へ、

司祭 主や尊貴なる我等の(府主教、大主教、主教)()を記憶し、彼(等)を平安、無難、尊貴、壮健、長寿なる者、及び爾が真実の言を正しく伝えるものとして、爾の聖なる教会に与え給へ、

輔祭 主や、我等の尊貴なる、今この至尊なる祭品を我等の主神に献げ奉る者の為、

、尊貴なる府主教、大主教、主教の救の為、司祭の尊品、ハリストスによる輔祭職、悉くの教衆及び修道士の為、この街と凡その町におる真のハリストティアニンの救われんが為、病の床に伏す者、縛らるる者、虜となりし者のまぬかれんが為、遠く祖国を離れて異郷に抑留せられたる者の解放せられんが為、今この聖堂に立ちて祈る衆兄弟の救の為、衆人の為、一切の為、

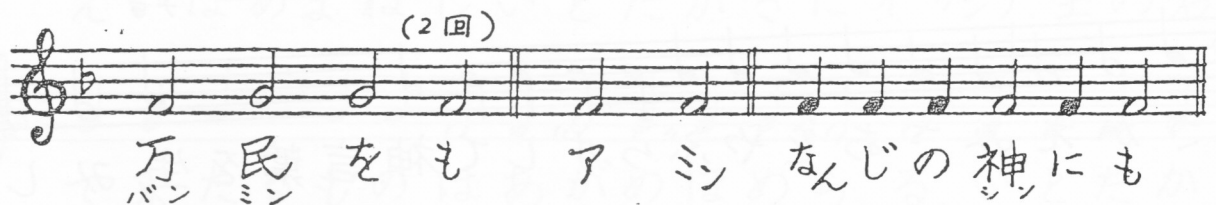
詠隊 万民をも

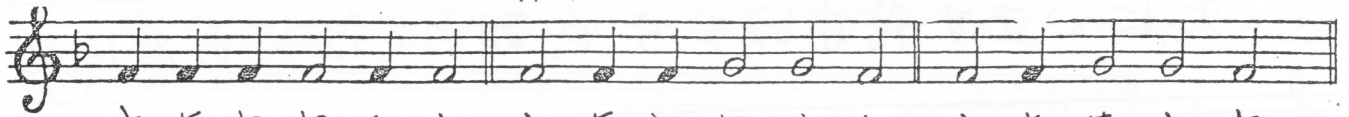
主教 並びに我等に口を一にし心を一にして、爾父と子と聖神の至尊至厳の名を讃栄讃頌するを賜へ、今も何時世世に、

詠隊 アミン

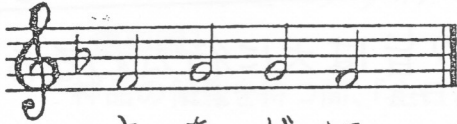
主教 願くは大なる神、我が救主イイスス・ハリストスの憐みは、爾衆人と偕に在らんことを

詠隊 爾の神にも





主あわれめよ 主あわれめよ 主たまえよ



主なんじに

- | | | | |
|----|--|----|------|
| 輔祭 | 我等諸聖人を記憶して復又安和にして主に祈らん | 詠隊 | 主憐めよ |
| 輔祭 | 已に献ぜられ及び聖にせられし尊き祭品の為に主に禱らん、 | 詠隊 | 主憐めよ |
| 輔祭 | 人を愛する我が神が、之を其 ^{その} 聖なる天上の無形の祭壇に置き、屬神の馨香として享け、我等に報いて、神妙の恩寵と聖神 [°] の賜とを降すが為に禱らん、 | 詠隊 | 主憐めよ |
| 輔祭 | 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん、 | 詠隊 | 主憐めよ |
| 輔祭 | 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、 | 詠隊 | 主憐めよ |
| 輔祭 | 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、 | 詠隊 | 主賜へよ |
| 輔祭 | 平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、 | 詠隊 | 主賜へよ |
| 輔祭 | 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、 | 詠隊 | 主賜へよ |
| 輔祭 | 我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、 | 詠隊 | 主賜へよ |
| 輔祭 | 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、 | 詠隊 | 主賜へよ |
| 輔祭 | 我等の生命の終が「ハリストシアニン」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、 | 詠隊 | 主賜へよ |
| 輔祭 | 信の同一と聖神の体合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 | 詠隊 | 主爾に |
| 主教 | 主宰や、我等に、勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神・父をよびて言ふを賜へ、 | | |

[天主經]



天にいます我等のちちや、願わくは汝の名は聖
ネガ
 とせられ汝の国は来たり、汝の旨は天に行なわれる
ムネ オコ
 がごとく地にも行なわれん、わが日用の糧を今日我等に
チ オコ ニチヨウ カテ コンニチ
 あたえたまえ、我等に債あるものを我等許すがごとく、
オイメ エル
 我等の債を許したまえ、我等を誘いに導かず、なお
オイメ エル イザナ ミチビ
 我等を兇悪よりすくいたまえ
キヨウ マカ

主教 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

詠隊 アミン

主教 衆人に平安

詠隊 爾の神にも

輔祭 爾等の首を主に屈めよ、

詠隊 主爾に、

主教 爾が独生子の恩寵と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す

爾の神ミコトと偕に讃揚せらる、今も何時も世世に、

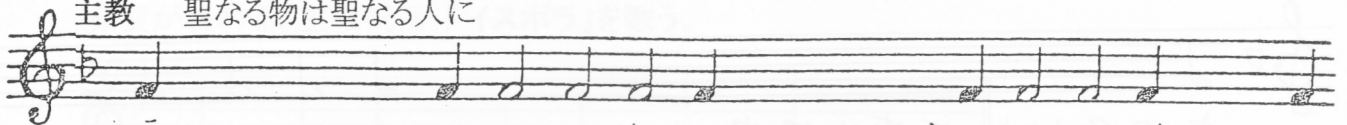
詠隊 アミン



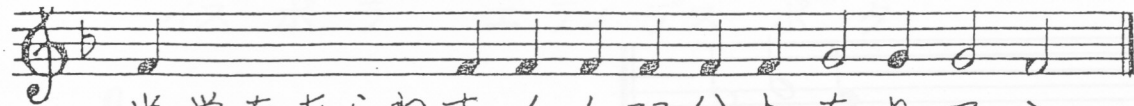
主なんじに ア ミン なんじの神にも

輔祭 謹みて聴くべし

主教 聖なる物は聖なる人に



聖なるはただひとり主なるはただひとり神ちちの



光栄をあらわす イイスス^{キリスト}なり アミン

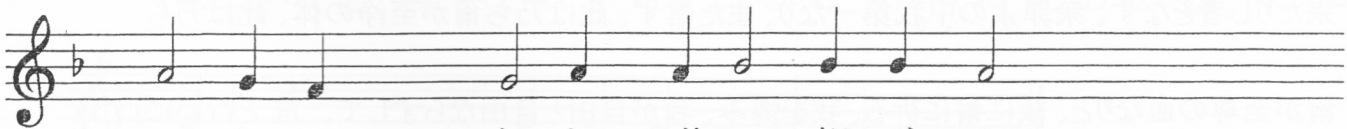
〔領聖詞〕

神品の領聖を待つ間、「主日領聖詞」を聖詠とともに歌う。あるいは他のふさわしい歌を歌う。

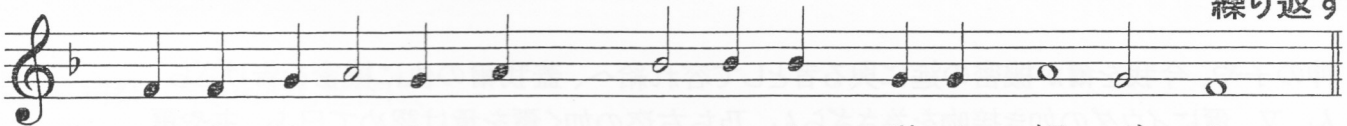
〔主日の領聖詞(8調)〕

148聖詠を誦読し、1句ごとに領聖詞を繰り返し歌う。

Ekaterina K.



天より 主を 讃め 揚げよ、
ほ あ



繰り返す

いと たか き に かれを 讃め 揚げよ。
至 高 彼 ほ あ

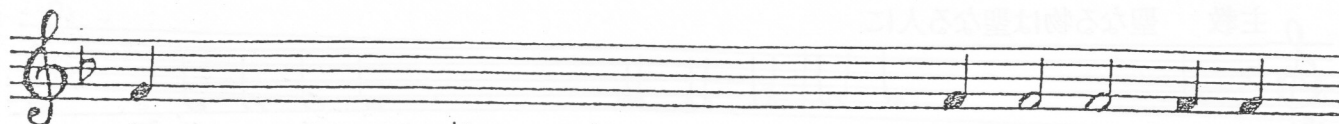
最後に



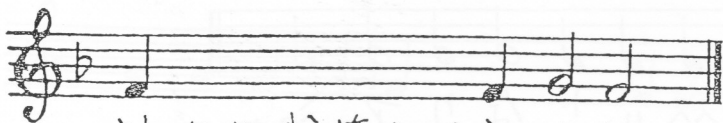
アーリルイヤー アリルーイヤー アリルイヤー

〔148聖詠〕 天より主を讃め揚げよ、至高に彼を讃め揚げよ、讃歌は爾神に帰す。／其悉くの天使よ、彼を讃め揚げよ、其悉くの軍よ、彼を讃め揚げよ、讃歌は爾神に帰す。／日と月よ、彼を讃め揚げよ。／悉くの光る星よ、彼を讃め揚げよ。／諸天の天と天より上なる水よ、彼を讃め揚げよ。／主の名を讃め揚ぐべし、蓋彼言ひたれば、即成り、命じたれば、即造られたり、彼は之を立てて、世世に至らしめ、則を與へて之を踰えざらしめん。／地より主を讃め揚げよ、大魚と悉くの淵、火と叢、雪と霧、主の言に従ふ暴風、山と悉くの陵、果の樹と悉くの栢香木、野獣と諸の家畜、匍ふ物と飛ぶ鳥、地の諸王と萬民、牧伯と地の諸有司、少年と處女、翁と童は、主の名を讃め揚ぐべし、／蓋惟其名は高く擧げられ、其光栄は天地に遍し。／彼は其民の角を高くし、其諸聖人、イズライリの諸子、彼に親しき民の榮を高くせり。

輔祭! 神を畏るる心と信とを以て近づき来たれ、



主の名によって来たる者はあがめほめらる 主は



神なり我等をてらせり

〔領聖祝文〕

主や、我信じ且 承け認めて、爾を実にハリストス生活の神の子、罪人を救うが為に世に
来たりし者となす、衆罪人の中我第一^{うち}なり、また信ず、此は乃ち爾が至浄の体、此は乃ち

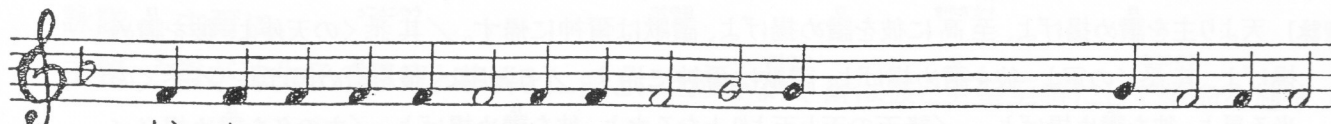
爾が至尊の血なりと、故に爾に祈る、我を憐み、我が自由と自由ならずして、^{ことば}言^{ことば}と行いに
て、知ると知らずして、犯しし諸罪を赦し給へ、並びに我に定罪なく、爾が至上なる機密を
領けて、罪の赦しと永生を得るを致させ給へ、「アミン」

神の子や、今我を爾が機密の筵に與る者として容れ給へ、蓋我爾の仇に機密を告げざら
ん、又、爾にイウダの如き接吻を為さざらん、乃ち右盜の如く爾を承け認めて曰ふ、主や爾
の国に於いて我を記憶せよ、と。

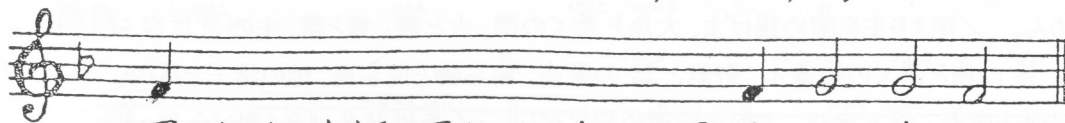
主や祈る爾の聖なる機密を領くるは、我が為に審案或いは定罪とならず、乃ち靈体の^{いや}醫^{いや}しとな
らんことを。アミン

〔領聖〕

詠隊 ハリストスの聖体を領け、不死のいずみを飲めよ、(繰り返す)



ハリス^ハトスの^スせい^スたい^スを受け、不^フ死^シのいずみをのめよ



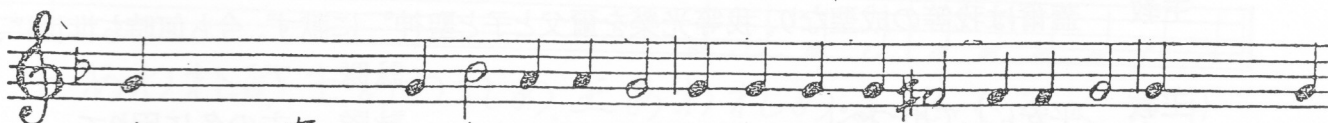
ア^アリ^リル^ルイ^イヤ^ヤ、ア^アリ^リル^ルイ^イヤ^ヤ、ア^アリ^リル^ルイ^イヤ^ヤ

主教 神や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降せ、

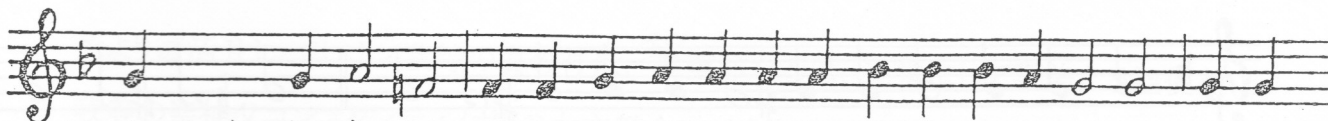
領聖が終わる。主教祝福。「イスポラ」を歌う。



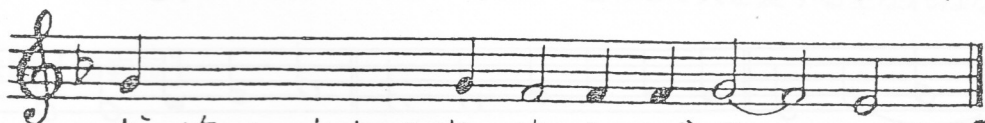
イス ポ ラ エ ティ デ ス ポ タ



すでに^{マコト}真のひかりを見、天のせいしんをうけただしき

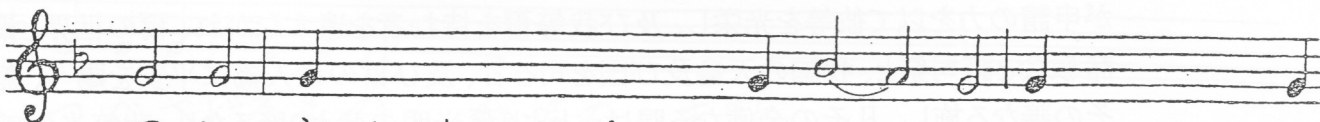


おしえをえて、わかれざるせい^{アンシヤ}三者をおがむ、かれ

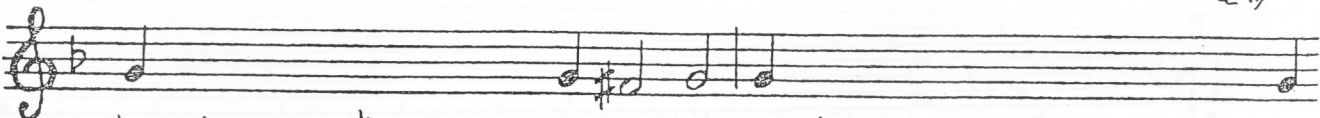


我等をすくいたまえはなり

司祭 今も何時も世に、



ア シ 主や汝の光栄をうたわん に、ほめ歌を以て^{モツ}



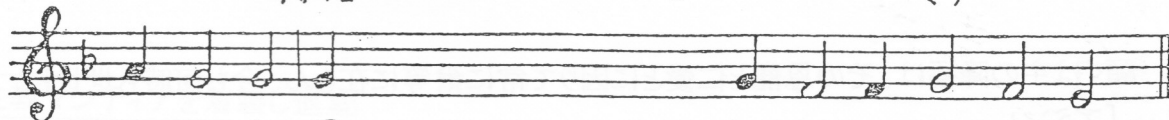
わが口に満たしめたまえ、生命^{イノチ}をほどこす聖なる汝



の機密^{キミツ}を受くるを、われらにゆるせばなり、いのる



我等を潔^{イサギヨ}きにまもり、日々^{ヒビ}に汝の道^{ミチ}をならわしめ



たまえ、ア ril イ ヤ、ア ril イ ヤ、ア ril イ ヤ

輔祭 謹みて立て、神聖、至浄、不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの聖機密を
領けて、宜しく主に感謝すべし、

輔祭 紙屋爾の恩寵を以て我等を佑け救ひ憐み護れよ、

詠隊 主憐めよ、主憐めよ

輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を
以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 詠隊 主爾に

主教 蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神[°]に献ず、今も何時も世世に、

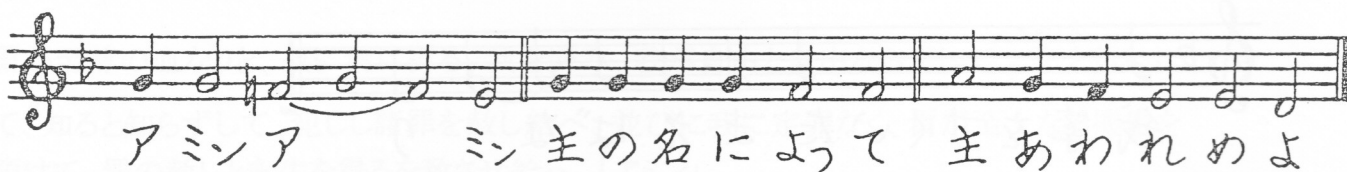
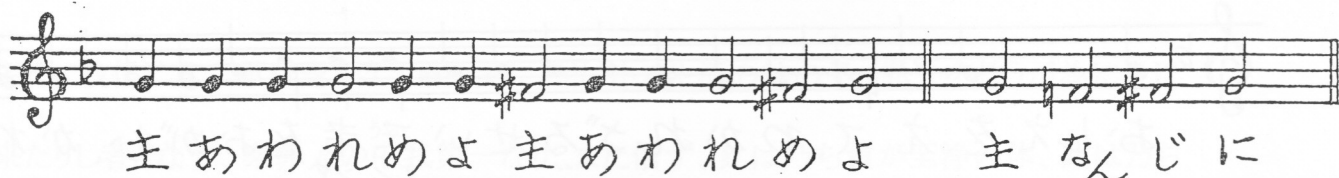
詠隊 アミン

主教 平安にして出づべし、

詠隊 主の名に因りて

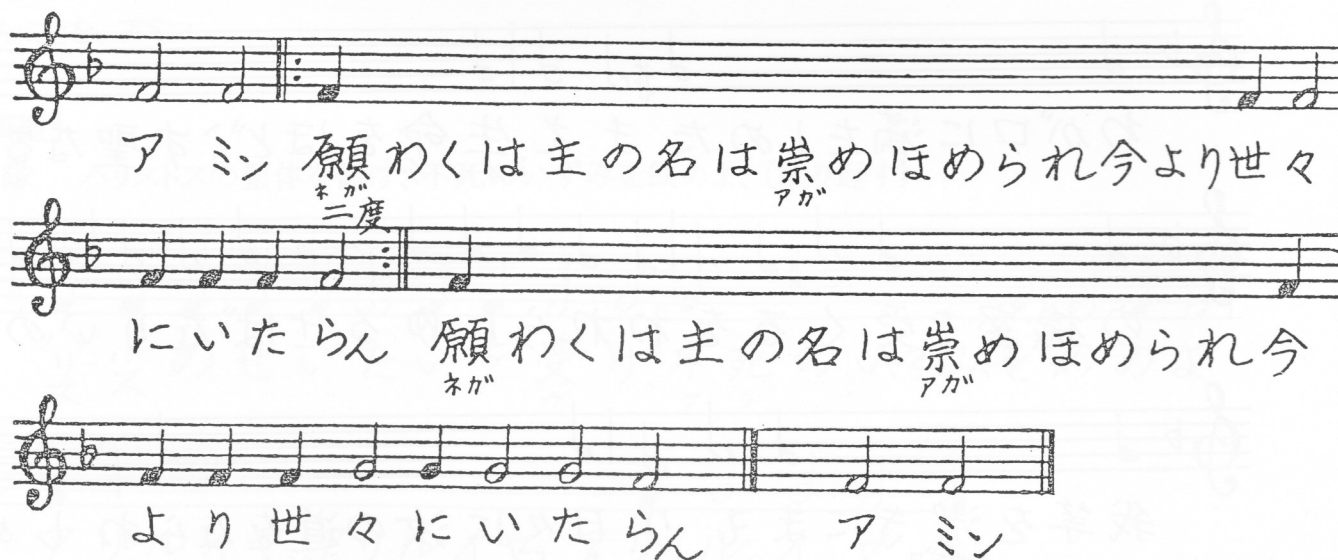
輔祭 主に祷らん、

詠隊 主憐めよ



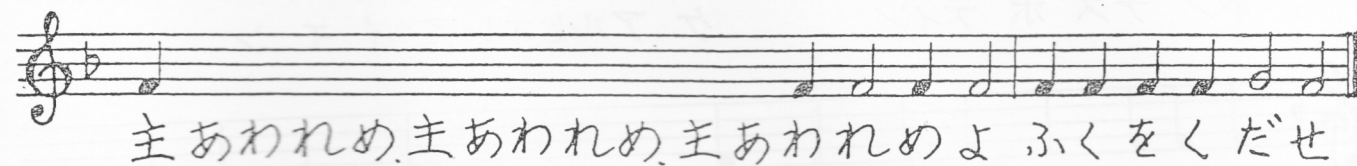
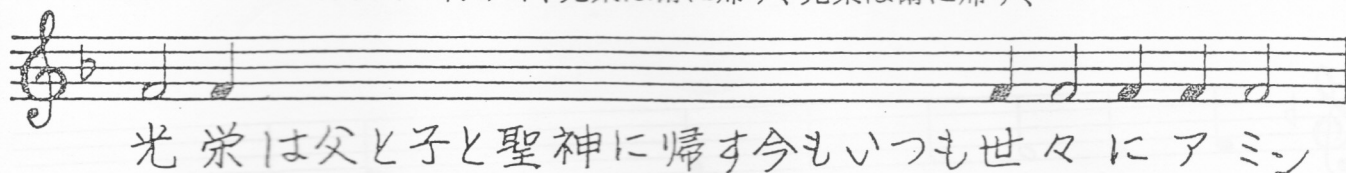
司祭 [升壇外の祝文]

爾を讃揚する者に福を降し、及び爾を恃む者を聖にする主や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教会の充滿を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が申請の力を以て彼等を光榮し、及び我等爾を恃む者を遣すなかれ、爾の世界と爾の諸教会と諸司祭と、我国の天皇及び国を司る者、及び爾の衆人為に平安を賜へ、蓋凡その善なる施し、凡その全備なる賜は、上より爾光明の父より降るなり、我等光榮感謝伏拝を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、



主教 願わくは主の降福は、その恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、
詠隊 「アミン」

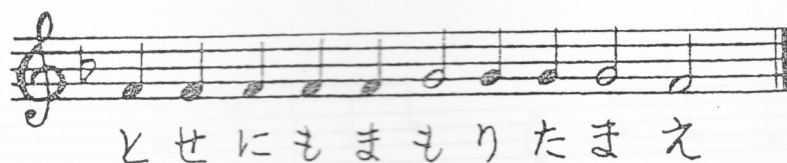
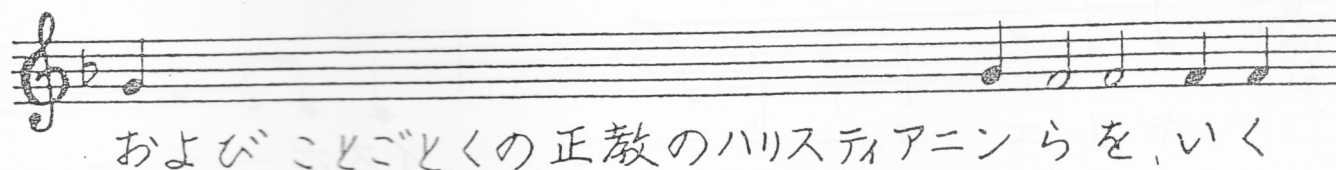
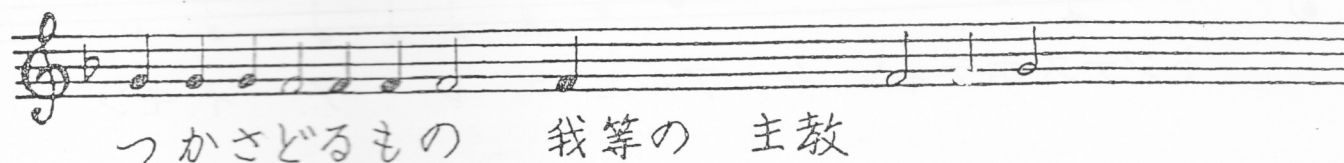
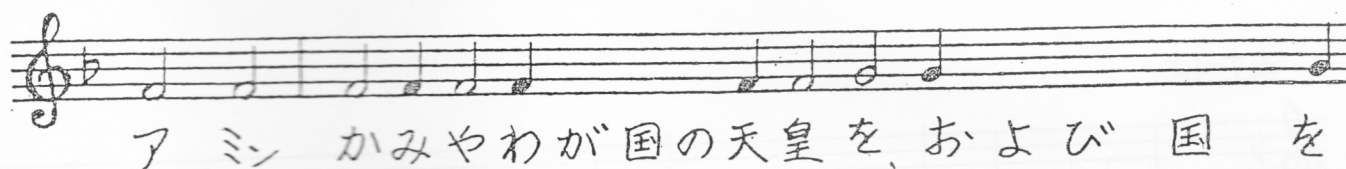
主教 ハリストス神我等の恃みや、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、



主教 [發放詞]

死より復活せしハリストス我等の眞の神は、其^{その}至淨なる母、光榮にして讚美たる聖使徒、
我等の聖神父コンスタンティノポリの大主教金ロイオアン、(当日の聖人)及び諸聖人の
祈祷に因りて我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

詠隊 [萬寿詞]

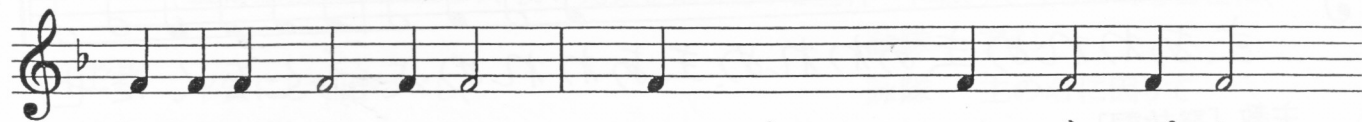


主教マンティアを着装し退堂

主教退堂の時「トンデスポティン」を歌う。



トン デス ポ ティン ケ アルヒエレア イ モ ン



キリエ フィ ラ テ イス ポ ラ エ ティ デス ポ タ



イス ポ ラ エティ デス ポ タ イス ポ ラ エ ティ デス ポ タ

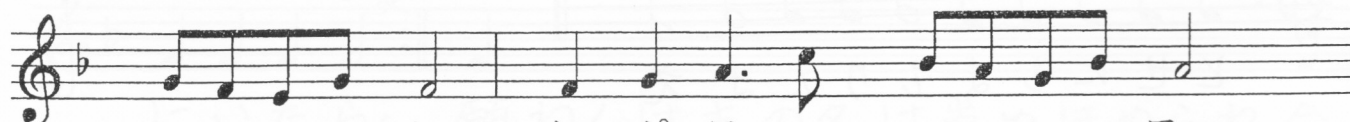
または



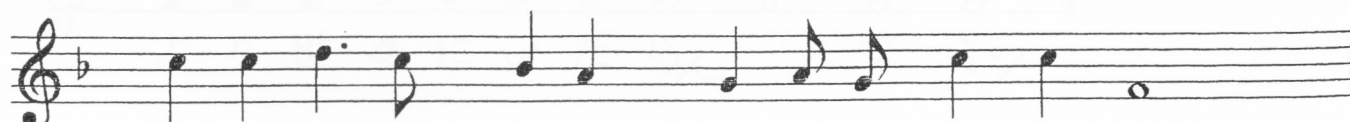
トンデス ポティン ケ アルヒ エ レー ア イモン



キリエ フィー ラー テ イスポー ラー



エー エー エー ティ イスポー ラー エー エー エー ティ



イスポー ラー エティ デー エー ス ポ タ